

Cast Party 2020 (Jp)



Told by Ryusui Seiryoin, Kenichi Sobu, Kysouke Tsumiki, Ryosuke Akizuki,
Akio Fujieda, Ryu Sakashima, and Agent Kunugi

Cover design by Tanya

Copyright © 2021 The BBB: Breakthrough Bandwagon Books

All rights reserved.

1. Opening ～清涼院流水（The BBB 編集長）ご挨拶



（※YouTube ではイベント動画「The BBB Cast Party 2020@Zoom」をご覧ください）

清涼院流水（以下、清涼院）：皆さん、こんにちは。今日のご参加いただきありがとうございます。僕は今日の司会を務めさせていただきます、The BBB 編集長の清涼院流水と申します。よろしくお願いいたします。今日のイベントは、The BBB としては初のオンライン・イベントとなります。今日、実は参加者の方たちには「私は The BBB のイベントに初めて参加します」という方も半分くらいいらっしゃるんですが、われわれも本当にオンライン・イベントというのは初めてなので、なにかと不慣れな点がありまして、お見苦しいところもあるかもしれません。その点は、ご容赦お願いします。

今年は皆さんご承知の通り、本当に、コロナ一色になってしまいました。年の初めから今、年末まで。コロナが最初の頃からすごいことになって、当然、BBB のイベントもできないだろうと、早い段階で思っていました。これは Zoom（ズーム）での初の BBB イベントとなるんですけども、僕自身が、実は Zoom に慣れてるわけではなくて。今日出演して下さってる藤枝（暁生）さんとか坂嶋（竜）さんは、ふだんから友人で、彼らからプライベートで、「流水さん、Zoom やりませんか？」と夏頃に誘っていただいたんです。僕は夏の時点では Zoom を 1 回もやったことがないし、できるかな、という不安もあって。「すみません、やったことがないので」と、お断りしたくらいなんです。ところが、9 月くらいですかね。秋頃から、たまたま仕事とかプライベートで、どうしても（Zoom を）やらざるをえない機会が増えまして。それで、もしかしたら Zoom でイベントできるんじゃないか、と思いました。それだ

けが理由じゃなくて、実は今日はメイン・トピックでもあるんですが、コロナ禍の影響で、海外の電子書店がものすごく変わってしまっていて。The BBB の仕組みも、今までのやり方から変えないといけない、ということで。これは、ご説明しない限り、ぜんぜん理解できないと思いますので、「これは絶対、読者の皆様にご説明する場が必要だな」と思いました。たまたま僕も Zoom に慣れたので、思い切ってこの Zoom イベントを企画させていただいたわけです。皆さんが集まってくださるかどうかも、わからなかったんです。Zoom は初めてという方が何人もいらっしゃるんですけども、けっこうたくさんの方が参加してくださって、本当に感謝しています。ありがとうございます。

そして、企画して良かったこととして、出演者の坂嶋さんも岩手ご出身で、東京に気軽に来られないですし、一般参加者の方も北海道とか九州から今日は参加してくださっていて。なかなか東京のイベントに参加できないような方も多いと思うので、Zoom は本当に、どこに住んでいてもつながれるというのは本当に素晴らしいツールだなと思いました。またコロナ禍でソーシャル・ディスタンスなどが重要ですけど、それも気にしなくて良いので。Zoom イベントを開催するに至った経緯は、そのような感じです。

こうして僕とか出演者が一方的に話しているだけだと、たぶん皆さん退屈して寝てしまうと思います。Zoom には、投票機能というのがあるんですね。事前にメールでもお伝えしたんですが、皆さん気軽にボタンをクリックするだけで質問に答えていただける、クイズみたいなノリです。これを何回もやることによって、皆さんも参加していただく、双方向性のあるイベントを今日は目指したいんです。まずは皆さんが慣れるために、ちょっと練習してみたいと思います。今日は「出演者の方たちから皆さんへの質問」というのがあるんですけど、まずあの（本日の Zoom ホストである）ターニャからの質問を、練習でやってみたいと思います。ターニャ、聞こえてる？

ターニャ: 聞こえてますよー。

清涼院: 「ターニャからの質問」を表示してもらえますか？ これは考える時間が1分間ありまして、そのあいだに音楽をかけます。

ターニャ: はい、では私のほうから、投票を今、表示させていただきます。

清涼院: 音楽が流れている1分間、考えられますので、焦らなくて大丈夫です。

※「ターニャからの質問」が Zoom の画面に表示され、参加者が投票。

※この投票画面と結果画面は、Zoom のシステムの関係から、YouTube 動画には記録されておられません。

ターニャ: それでは、結果を共有させていただきます。こんな感じです。

ターニャからの質問

ずばり、あなたは“何派”ですか？



清涼院: 「ターニャからの質問」ということでしたが、結果は、どうですか？

ターニャ: この投票には22名の方が参加され、第1位はネコ派。ネコ派なんですねー。第2位として、イヌ派も8名いらっしゃいました。わーい。ほかには、おサカナ派が伸びてますね。そして、ウサギ派、ハムスター派、ウマ派というのは……これは乗るほうですか？ それとも、ベット（賭け）するほうですか？ みたいな感想があります。そして、トリ派。「その他」の方も、いらっしゃるんですねー。おー、いろいろありますね。（画面に表示されるチャットでのコメントを見て）え!? 積木さん、「思い知ったか、宿敵イヌ派！」って……。私はイヌ派なので、宿敵だわ……。笑）。

清涼院: そういうコメントも書いていただけると、ありがたいですね。

ターニャ: 自由にコメントをお書き添えいただければ、と思います。ということで、こんな感じで皆さんとイベントの中でやりとりしながら投票していきなりたいなと思います。はい、流水さん、お願いします。

清涼院: この投票を今日は合計17回やる予定です。多いと思われるか少ないと思われるか、わからないですけど。では、投票結果は消していただいて大丈夫です。

ターニャ: はい。結果の共有を停止いたします。消えましたでしょうか？

清涼院: では、ターニャ、スライドを画面共有で表示していただけますか？

ターニャ: はい。ただ今から私のほうで画面共有させていただきます。

清涼院: もしスライドが見られないという方がいらっしゃいましたら、チャットでお知らせください。スライドを見ながら、ご説明していきます。

ターニャ: 私は画面共有でチャットが見られなくなりますので、(チャット・サポート担当の) K.G.さん、チャットの確認をお願いします。

本日の予定

1. Opening
～清涼院流水 (The BBB 編集長) ご挨拶
2. 「コロナ禍が激変させた海外電子書店と The BBB」
3. エージェント工刀さん (The BBB 校正責任者)
4. 坂嶋竜さん (評論家)
5. 秋月涼介さん (作家)
6. 真山知幸さん (偉人本&名言本 著者)
7. 蘇部健一さん (作家)
8. 藤枝暁生さん (酒場本&英語本 著者)
9. 積木鏡介さん (作家)
10. Q&Aセッション (延長の可能性あり) ～Ending

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 本日の予定は、このようになっています。今、この「Opening ～清涼院流水ご挨拶」というところですね。このあと、「コロナ禍が激変させた海外電子書店と The BBB」というコーナーになります。これは本日のメイン・トピックー今年だけの特集で、今年あった出来事について皆さんにご説明する、というコーナーになります。その後、本日の出演者の方たちにおひとりずつ注目して、お話しさせていただきます。おひとりずつ、だいたい10分から15分程度を考えています。最低10分ですが、15分以内には終わりたい、ということですね。途中、イベントの真ん中あたりで一度、休憩を挟みます。そして、最後の「Q&Aセッション」では、出演者全員へのご質問をいくつかお預かりしていますので、最後は出演者全員で自由にお答えするような楽しい場にしたいと思っています。まず、本日どのような出演者がいるのか、まだ把握していらっしゃらない方も多いと思いますので、その意味でも、おひとりずつ注目してみたいと思います。次のコーナーに行く時は、僕がコーナーのBGMをかけます。では、ターニャ、スライドの次のページをお願いします。

清涼院流水 (せいりょういん・りゅうすい)

1996年、『コスミック』で
第2回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。

The BBBでは、編集長と英訳者を務める (たまに著者も)。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

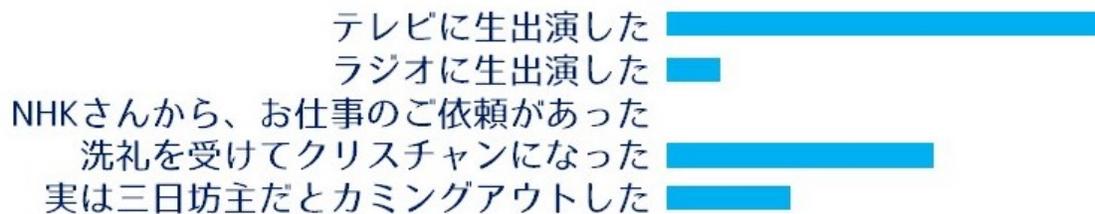
清涼院: まず、コロナ禍の説明をする前に、今日は、こういう感じで出演者ひとりひとりのページというのをつくりました。僕のページはサンプルとしてつくったのですが、本日は、このように出演者各人のページが、登場時に表示されます。このような紹介ページをベースに、その方をご紹介していきます。僕であれば、「清涼院流水。1996年、『コスミック』で第2回メフィスト賞を受賞し、作家デビュー。The BBBでは編集長と英訳者を務める。たまに著者も。」という説明があり、下に表示されてるのが、僕が今年と昨年(2019-2020年)に出した本です。最近僕は、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、小説だけじゃなくて英語の活動も結構してまして。英語の活動も一というより、英語の活動ばかりしている、とも言えるくらいで。この4冊とも、実は英語関連本なんです。そうすると、「小説は書かないんですか?」と思って下さる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は右の2冊は小説なんです。「感涙ストーリーで一気に覚える英単語3000」と「きみと行く 満天の星の彼方へ」というのは(ミステリー的な趣向のある)小説ですので、もし「清涼院流水は小説を書かないのか? ミステリーは書かないのか?」と思われた方は、この2冊を読んでいただくとありがたいです。そして、このページは僕の簡単な自己紹介なのですが、本日、参加者の方たちから「出演者の方たちの今後の予定を教えてください」という質問をいちばん多くいただきました。もちろん、出演者全員にお聞きする予定ですが、僕の今後の予定や近況については、もうクイズにしちゃおうかなと思いました。先ほど皆さんに体験していただいた質問への投票ですね。僕から皆さんへの質問というのは、実は、TOEICテストではNOT問題と言われてるものです。僕が今年体験したことについて今から皆さんにお聞きするのですが、その中に、ひとつだけ嘘があります。その嘘を当てていただきたい、という質問です。では、ターニャ、僕から皆さんへの質問を表示していただけますか?

ターニャ: はい。では、質問を表示しますので、いったん画面共有を停止いたします。では、今から質問を表示いたします。起動します。

清涼院: 皆さん、嘘を見つけてくださいね。ひとつだけ嘘がありますから。清涼院流水マニアでない限りわからないと思いますので、勘で答えていただいて結構です。わからないという場合には、もちろん投票なしでも大丈夫です。

清涼院流水からの質問

以下の選択肢の中で、ひとつだけ、清涼院流水が2020年に体験しなかったことがあります。どれでしょう？



清涼院: この結果を見ながら、ご説明していきたいと思います。

ターニャ: では、投票を締め切りますね。結果は、こうなりました。

清涼院: わからなかった、という方が多いでしょうね。まあ、それは当然ですね。で、どれが嘘だったかと言いますと、実は、「テレビに生出演した」というのが嘘で。正解された方が多かったですね。僕の（デビュー作の）『コズミック』が今年、テレビの生放送で紹介されたことはあったのですが、僕自身は生出演してないので、これが嘘となります。

ラジオは、生放送に出演しました。気になられた方は The BBB 公式ウェブサイトの「イベント情報ページ」（の「2020」）をクリックしていただくと、その時の動画が出てきます。もしご興味のある方は、そちらをご覧ください。そしてですね、意外に思われる方も多いかもしれないですけど、実は今年、洗礼を受けてクリスチャン（カトリック信徒）になりました。以前、キリシタン大名と宣教師の小説を書いたことがきっかけで、今後はキリスト教をテーマにした小説も書いてみたいと思っています。そして、「三日坊主だとカミングした」というのは、先ほど画面に写っていた本の中に『三日坊主でも英語は伸びる』という本がありました。その本の中で、「実は三日坊主なんです」と、初めてカミングアウトしました。

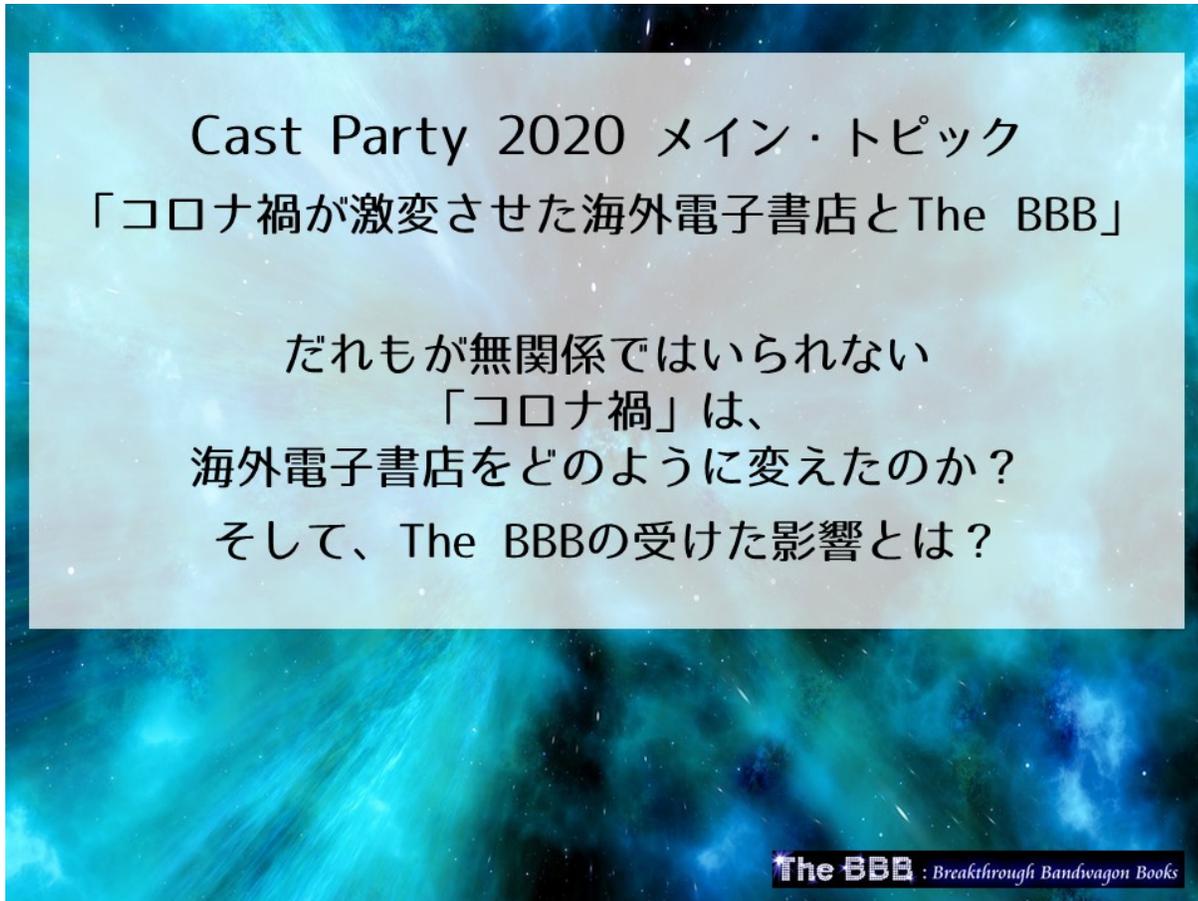
そして、選んだ方はいなかったのですが、「NHKさんから、お仕事のご依頼があった」というのは本当です。これは今日、僕のいちばん大きなご報告となるかもしれないのですが、実は先日、『NHKラジオ英会話』さんからご依頼があり、2021年3月発売の4月号から、僕が翻訳の連載を1年間させていただくことになりました。早稲田大学名誉教授の（ジェームス・M・）バーダマン先生という方が英文を書かれて、それを僕が和訳させていただく記事を毎月連載します。『NHKラジオ英会話』のラジオ番組で流れるというわけじゃなくて、テキストの中で連載しますので、もしご興味のある方は、そちらもご覧いただければと思います。



清涼院: では、ありがとうございました。投票結果を消してください。スライドのコロナ禍のページに戻っていただけますか。

ターニャ: 今、画面共有しています。スライドは次のページに進めているのですが、通信状況によって、ちょっとジェット・ラグ（時差ボケ）が起こります。

2. 「コロナ禍が激変させた海外電子書店と The BBB」



清涼院: 先ほどもご説明しましたが、これは本日のメイン・トピックですね。「コロナ禍が激変させた海外電子書店と The BBB」。皆さんがご興味あるか、わかりませんが、今日は本当に、これをご説明するための会なんですね。ですから、これはまず、きちんとやらせていただかないといけない、ということです。「だれもが無関係ではられないコロナ禍は、海外電子書店をどのように変えたのか？ そして、The BBB の受けた影響とは？」で、次のページお願いします。……あれ？ ターニャ、いないかな？ ターニャが、ちょっと席を外してるかもしれないですね。あ、時差で、今、表示されましたね。

The BBBが創設からコロナ禍に至るまでの 8年間（2012-2020）に刊行してきた作品の内訳

The BBBでは、多くの作品を英語版と日本語版の両方で、
また、有料作品だけでなく無料作品も刊行してきました。
（一部、英語版のみ、日本語版のみもあります）

- ・ 英語の有料作品 71作品
- ・ 英語の無料作品 46作品
- ・ 日本語の有料作品 33作品
- ・ 日本語の無料作品 43作品

合計 193作品
（2020年12月現在）

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: これが2ページめです。The BBB が創設してからコロナ禍の今年に至るまでの8年間、2012年から2020年に刊行してきた作品の内訳です。The BBB では多くの作品を英語版と日本語版の両方で刊行してきました、また有料作品だけでなく、無料の作品もありまして、内訳はご覧のようになっています。元々は英語の有料作品を販売する目的で始めた活動ですので、英語の有料作品が当然、いちばん多くなっています。最初は英語の有料だけだったのですが、読者サービスとして、興味を持っていただくため英語の無料作品も始めました。また、最初は英語だけの活動でしたが、日本人読者の方から「日本語でも読みたい」というお声をいただいて、日本語も有料と無料をそれぞれ出すようになりまして、合計193作品ですね。8年間で。2020年12月現在193作品で、来年（2021年）にはついに200作品の大台に乗るかな、というところです。では、次のページをお願いします。

コロナ禍以前の英語作品刊行の流れ

電子書店の規定に合わせて作成したWordからePubを作成し、まず、アメリカの電子書店Lulu.comで発売します。

(Luluで発売するメリットは、ISBNの取得と世界中の電子書店で販売できることです)

英語版は、Luluでの審査を経て問題ないと判断されたら、通常、Luluでの発売から2～4週間程度で、海外の主要電子書店 (Amazon、Apple、Kobo、NOOK、Googleなど) で発売されていました。

以前は、英語版は、Luluから無料で発売すると、すべての電子書店で自動的に無料になっていました。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: The BBB では実際どんな感じで作品を刊行しているのか、というのは、参加してくださっている著者の中にも、ぜんぜんご存じでない方もいらっしゃるかもしれないので、改めて、この機会にご説明したいと思います。これは、コロナ禍以前—コロナ禍の前の話です。

電子書店のフォーマットの規則がありまして、その規定に合わせて Word ファイルから ePub という電子書籍用のデータを作成し、まず、アメリカの Lulu . com という電子書店で発売します。この Lulu というのは日本人にはあまり知られてないかもしれないのですが、Lulu で発売するメリットとして、本のマイナンバーとも言える ISBN という世界共通の書籍コードがあるのですが、Lulu では ISBN を無料で取得できるんです。これを実は1冊の本で取得しようとすると、通常は8,000円かかります。出版社などが大量に購入すると安くなるんですけど、ともかく1冊の本が本来なら8,000円かかるISBNが無料で取得できるということです。もうひとつの利点として、世界中の電子書店で販売できる、ということです。

「世界中」というのは、ぜんぜん大げさじゃなくて、今、The BBB の公式ウェブサイトは、世界187の国と地域からアクセスがあるんですね。サイトが見られているだけじゃないかと思われるかもしれませんが、実際、電子書籍はどうかかといった時に、今、The BBB でいちばんダウンロードされているのは、無料作品では、僕の『King In The Mirror』というマイケル・ジャクソンの人生を描いた小説がありまして、その前半部分が無料なんですね。これはマイケル・ジャクソンの本で無料だということで、実は今、約80か国でダウンロードされていて、これがThe BBB でいちばんダウンロードされている作品となります。有料作品としては、森博嗣さんのベストセラー『スカイ・クロラ』の英語版をThe BBB から刊行させていただいておりまして、これは有料なんですけど、これまでに30か国でダウンロードされていま

す。そのように、有料でも 30 か国、無料では 80 か国でダウンロードされている実績もありますので、世界中の電子書店で販売している、と言えると思います。

英語版の電子書籍は最初 Lulu で発売するのですが、Lulu によってコンテンツを審査されます。Lulu の審査を経て「問題ない」と判断されたら、通常、Lulu での発売から 2 週間から 4 週間程度で、海外の主要電子書店—Amazon、Apple、Kobo、NOOK、Google—などで販売されていました。「いました」と過去形なのは、ちょっと状況が変わったからなんですけれども。Amazon や Apple など最大手だけでなく、実は他にも数十の海外電子書店で販売されているのですが、それらは日本人の多くは聞いたことのない海外の電子書店ですので、ここでは割愛しています。また、先ほど無料作品があることをご紹介しましたが、以前は英語版は Lulu から無料で発売すると、すべての電子書店で自動的に無料になっていました。このあたりも実は変化があったポイントで、あとでご説明します。では、次のページをお願いします。

コロナ禍以前の日本語作品刊行の流れ

英語版同様、電子書店の規定に合わせて作成した Word から ePub を作成し、まず、アメリカの電子書店 Lulu.com で発売します。

(コロナ禍以前、Lulu は、日本語を含めた世界中の主要言語に対応していました)

Lulu には日本語を審査できるスタッフがいないため、The BBB スタート当初は、日本語版は、Lulu でのみ販売していました。のちに、日本語版は The BBB から Amazon、Apple、Kobo に直接申請して、発売するようになりました。

日本語版の無料作品について、Amazon では最初から無料では発売できない仕組みなので、Amazon が自動的に設定する最低価格で発売した後に、毎回、無料化申請を行います。

無料になった後も、Amazon ではランダムに有料に戻されることがあります。The BBB が自分たちで無料作品を有料に変更することは、ありません。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 今度はこれもコロナ禍以前の話ですが、日本語作品刊行の流れですね。先ほどは英語版の刊行方法した。では、日本語版はどうかと言いますと、英語版同様に、電子書店のガイドラインに合わせて ePub を作成します。そして、まずアメリカの電子書店 Lulu.com で発売します。これも同じで、メインの目的は ISBN を無料で取得することです。で、コロナ禍の以前は、Lulu は日本語を含めた世界中の主要言語に対応していました。数えてはいませんが、たぶん 100 以上の言語に対応していたと思います。ずらっと言語が列挙されているのを見たことがあります。ただ、Lulu には日本語作品を審査できるスタッフがいないため、日本語作品を Lulu 経由で他の電子書店で発売することはできず、The BBB スタート当初は、日本語作品は Lulu でのみ販売していました。のちに、日本語作品は The BBB から独自に Amazon、

Apple、Kobo に直接申請して販売するようになりました。ですから、日本語作品は途中から Lulu だけでなく、Amazon、Apple、Kobo でも利用可能となっています。

ここからは、ご存じでない方も多いのではないかと思います。The BBB の日本語の無料作品というのは、先ほどご紹介したように、たくさんあるのですが、実は、Amazon では最初から無料と設定できないようになっているんです。Amazon が自動的に設定する最低価格として、たいてい 0.99 ドルなどに設定されます。日本円なら 100 円くらいに。その後、実は毎回、Amazon に「無料化申請」というのを行っています。どういうことかと言いますと、まず Apple とか Kobo で作品を刊行するんです。Apple と Kobo は無料で販売できますので、そちらで無料で販売してるという実績をまずつくってから、Amazon に「これは他社では無料で販売していますので、Amazon さんでも無料にいただけますか」と依頼すると、審査の結果も承認されて初めて無料になるんです。ちょっと面倒臭いんですが。

さらに面倒臭いことに、無料になったあとも Amazon ではランダムに有料に戻されることがあります。どういうことかと言うと、一定期間ダウンロードされないと無料作品が勝手に有料に戻されるプログラムがあるようなのです。有料に戻された場合は、再度、「無料にしてください」と Amazon にお願いしないとイケなくて。多い作品では本当に、通算 30 回以上も「無料にしてください」とお願いし直したことがあるくらいです。お伝えしたかったのは、われわれ The BBB が無料作品を途中から有料に変更することはありません、ということです。

ここからまたコロナ禍でのご説明に入っていくのですが、こういう話を淡々と続けると単調になってしまうと思います。ここで、本日の出演者ではないのですが、The BBB に参加して下さってる画家の佐久間真人さんという方がいらっしゃいまして。佐久間さんからのご質問がちょうど The BBB の電子書籍の活動と重なってしまいましたので、ターニャ、「佐久間さんからの質問」を表示していただけますか。

ターニャ: では、画面共有をいったん停止いたします。



清涼院: 何度も画面が切り替わって、申し訳ないです。これも、わからない方が多いと思いますので、無回答でも、もちろん問題ありません。

佐久間真人さんからの質問

The BBBの電子書籍の刊行ペースを
どのように思われますか？

刊行ペースが速すぎて
読んでいるシリーズを追うのも難しい



ちょうど良い刊行ペースだと思う



目的の本を待つ間も既刊本や
Facebook連載などあるので問題ない



刊行ペースが遅くて
前回の話を忘れてしまった



刊行ペースが遅すぎて
もう何も読むものがない！

その他（まだ読んだことがない、など）



清涼院: 今日は The BBB イベントに初参加の方が多いので、「まだ読んだことがない」というのは正直なところだと思います。また、ご自分で読む量を調整できるので、刊行ペースが遅すぎる、早すぎる、というのも、あまりないかもしれないですね。「目的の本を待つあいだも既

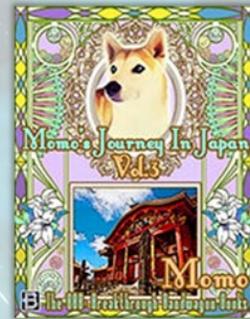
刊本や Facebook 連載などがあるので」という項目がありますが、Facebook 連載については、あとでまたご説明したいと思います。ありがとうございます。では、スライドの先ほどの続きに戻っていただけますか。

アメリカでコロナが爆発的に拡大し始めた2020年4月、その月のThe BBB新刊『モモ旅 Vol.3』発売時に、初めて異変を確認しました。

コロナ禍の中、Lulu.comサイトが過去最大のリニューアルしたのですが、ただのリニューアルではなく、日本語版と無料版を発売できなくなってしまったのです。
(日本語だけでなく、中国語や韓国語なども受けつけられなくなりました)

さらに、英語版は、AmazonやAppleに審査が通らなくなりました。

以後、The BBB内部では「Lulu禍」が合言葉となり、状況把握に7か月を要することになります。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 先ほどはコロナ禍の前の話でした。ここからいよいよコロナ禍の話になります。アメリカでコロナが爆発的に拡大し始めた2020年4月、その月のThe BBB新刊『モモ旅 Vol.3』発売日に初めて異変を確認しました。The BBBでは基本的に毎月新刊を出しているんですね。2020年4月まではコロナ禍にも関係なく今年も1、2、3月に新刊を出していました。ところが4月にこの『モモ旅 Vol.3』を出した時に明らかに変化がありました。

まず、ここに書いていますように、コロナ禍の中、われわれがメインのプラットフォームとしているLulu.comのサイトが、過去最大のリニューアルをしました。サイトの見た目とかもぜんぜん変わっちゃったんですが、ただのリニューアルじゃなくて衝撃的だったのは、急に、日本語作品と無料作品を発売できなくなってしまったんです。で、この『モモ旅』というのは、まさに英語版と日本語版を無料作品として出してるんですね。なので、新刊である『モモ旅』の日本語の無料作品を突然、出せなくなったんです。しかも、無料作品を出せなくなったということは、英語版(の無料作品)も出せないということなので、『モモ旅』を出そうと思っても出せない状況になってしまったんです。しかも異常だったのは、日本語だけじゃなく、中国語とか韓国語もLulu.comでは受けつけられなくなったんです。これは、先ほどもお話ししたようにLuluに日本語とか中国語、韓国語のわかるスタッフがないという考え方もできるんですけども、当時、コロナが爆発的に広がってアジア人バッシングが悪化している時期でしたので、もしかしたらこれもアジア人差別の一環なのか、と思ってしまったこともある

ほどなのですが。それは、そうじゃなくて、単に審査する人がいないという問題かもしれないですけど。とにかく、われわれの言語（日本語を）を切り捨てられてしまった、と言いますか。さらに、英語の有料作品は出せるのですが、出しても Amazon と Apple に審査が通らなくなってしまったんです。それまではスムーズに審査が通っていたのが、なぜかコロナ禍以降は審査が通らなくなって、とにかくなにが起きているのかわからない。で、Lulu の変化というのは、すべての電子書店に影響しますので。以後、The BBB 内部では「Lulu 禍」というのが合言葉になったんです。今年はコロナ禍と言われましたけれども、僕らとしては本当に、コロナより Lulu がやばいということで、スタッフとは「Lulu 禍」だと言ってました。それから状況把握に7か月を要しまして、先月（2020年10月）くらいに、ようやく状況が見えてきたのです。では、次のページをお願いします。

2020年6月、森博嗣さんの『クレイドゥ・ザ・スカイ』の英語版1巻を Lulu.com から発売したところ、通常なら2～4週間で他の書店に承認されるのに、発売から3か月経っても、どこの書店にも承認されない、という、まさに異常事態。

コロナ禍以前はLuluにお問い合わせメールをすると、必ず丁寧な“神対応”返信があったのですが、今年は何度メールしても、「現在、お問い合わせが殺到し、対応できておりません。お待ちください」という自動返信が戻ってくるだけで、サイト上にも、そのような注意書きが常に掲載されていました。

ついに、9月末には、自分たちで『クレイドゥ・ザ・スカイ』の英語版1巻をAmazon、Apple、Koboから発売しました（10月末に2巻を出すため）。Luluの機能停止は、いよいよ明らかとなったのです。

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books



清涼院: 先ほどの話は2020年4月の話で、2020年6月には森博嗣さんの『クレイドゥ・ザ・スカイ』の英語版1巻をLulu.comから発売しました。通常なら2週間から4週間で他の電子書店に順番に承認されるのですが、発売から3か月経っても、どの書店にも承認されないという異常事態で。森博嗣さんのこの『スカイ・クロラ』シリーズは、どの著作も順調にダウンロードされ続けていまして、The BBBの看板作品なんです。それはAmazonとかAppleなどに承認され、いろんな電子書店で販売されているからこそその拡散だったのですが、Luluで発売してからぜんぜん広がらないのは本当に困ったことでした。もちろん、Luluに問い合わせメールもしてみました。コロナ禍以前は、Luluに問い合わせメールすると、ものすごく丁寧な“神対応”の返信があったんですね。どんなトラブルも、今までは、その神対応で解決してくれていたのですが、今年は何度メールしても、「現在、お問い合わせが殺到し、対応できておりません。お待ちください」という自動返信しか返ってこなくて。つまり、人間（スタッフ）からの

返信がぜんぜんなくて。以前は、すべて人間が書いている返信だったのですけれど。サイト上にも同じような注意書きが掲載されていて、何が起きてるかわからないということで、困り果てまして。『クレイドゥ・ザ・スカイ』の英語版2巻をもう出さないといけない時期になってしまったので、仕方なしにLuluを頼らず『クレイドゥ・ザ・スカイ』1巻は、Amazon、Apple、Konoに自分たちで申請して発売しました。自分たちで発売できたわけですが、Luluが本当に機能していないことが、いよいよ明らかになったわけですが。それは一時的な状態ではなく、数か月間ずっとそうだった、ということで。では、次のページをお願いします。

その後、2020年10月にLuluサイト上で正式発表があったのですが、2020年4月の大規模リニューアル時に、Luluは、世界中の電子書店との契約を新たに結び直したものの、利益配分などをめぐって、電子書店間同士はかなり深刻なトラブルがあったようです。そのトラブルの影響で、Luluが数か月間にわたり機能停止する迷走が続いていたのです。

2020年10月の時点で、電子書店間同士の契約見直しや契約解除もあったようで、それによって、The BBBの多くの作品が影響を受けることになりました。

K.G.さんと清涼院流水が手分けして状況を把握するだけで1か月かかったのですが、2020年11月の時点でようやく確認できた海外電子書店の重大な変化は、以下の3点です。

- ①今までThe BBBが発表した英語の無料作品は、Amazonでは、すべて有料にされた。
- ②今までThe BBBが発表した英語作品のいくつかは、Amazonでは、ランダムに削除された。
- ③今までThe BBBがKoboから発表した英語作品は、すべて削除された。

清涼院: その後、2020年10月末—つい2か月前のことですが—、Luluのサイト上で正式発表があり、それによって今まで起こっていたことが、おぼろげにわかってきました。

2020年4月の大規模リニューアルの時に、Luluは世界中の電子書店と契約を新たに結び直していました。それは過去最大の大型契約で、たしかにLuluも最初、誇らしげにそれを発表していました。「今後は、よりいっそう世界中の電子書店を網羅できます」ということをアナウンスしていたのを、確かにおぼえていました。ところが、新しい契約の利益配分を巡って電子書店同士はかなり深刻なトラブルがあったようで、それがLuluが機能停止する迷走の原因だったようです。で、2020年10月時点での発表によると電子書店同士の契約の見直しや契約解除もあったようで、そういう内容のアナウンスがありました。それによって、The BBBの多くの作品がまた影響を受けることになりました。それまでも作品が出せなくなるという影響を受けてたんですけど、Luluの契約が変わったことによって、既存の作品までもが影響を受けることになってしまったのです。The BBBサイト管理人のK.G.さんと僕が手分けをして状況を把握するだけで1か月かかったのですが、この“キャスパ”(Cast Partyの愛称)でご報告

したかったので、2020年11月にがんばって調査しました。11月の時点でようやく確認できた海外電子書店の重大な変化をまとめると、ご覧の3点になります。

まず、ひとつめ。今までThe BBBが発表した英語の無料作品は、Amazonでは、すべて有料にされました。これは過去に出した英語作品ですね。無料作品をたくさん出していたんですが、そのすべてを勝手に有料にされちゃったんです。元に戻す方法はありません。

ふたつめは、今までThe BBBが発表した英語作品のいくつかは、Amazonでランダムに削除されました。たくさん発表したきた作品の、だいたい10ぶんの1くらいですかね。勝手に削除された作品には法則性も何もなく。たとえば、森博嗣さんの短編のひとつとか、3分冊あるうちの途中の巻だけがいきなり消えた、とか。たぶん、プログラムの問題だと思うのですが。それらの作品が後日復活するのか、それとも復活しないなら再発売しないといけないのですが、そのあたりはまだ正直どうなるかわからないような、現在進行形です。

そして、みっつめ。今までThe BBBがKoboから発表していた英語作品は、すべて削除されました。Koboから発表した英語作品ですね。有料か無料かに関係なくすべて削除されてしまいました。他の電子書店は大丈夫だったのですが、今、AmazonとKoboの電子書籍がすごい勢いがありまして。最大手のAmazonとKoboがLuluが特にトラブルったっぽくて、過去の作品がこのように大きな影響を受けたわけですね。では次のページをお願いします。

最後に、これまで読者の皆様にたくさんダウンロードしていただいたThe BBBの無料作品シリーズの変更点を、整理します。

- ・ 無料作品の英語版を、今後は電子書店では刊行できなくなった。
 - The BBB公式ウェブサイトでは今後無料作品の英語版をご提供いたしますが、電子書店では英語版は有料のみのご提供となるため、区別する意味で、本来は無料作品の電子書店での有料版にのみ特典原稿をつける方針です。
 - 秋月涼介さんの『The Sifted Vol.9』で、この方法を初めて試し、The BBBの次の新刊『百名山 Vol.6』でも同じ方法を採用しています。
- ・ 無料作品の日本語版は、今後もAmazon、Apple、Koboではご利用いただけますが、無料作品の英語版と内容を合わせるため、巻末の特典原稿は、日本語版には、ついていません。
- 特典原稿の日本語版は、英語版をご購入いただいた方に差し上げる形となります。
- Luluは、無料作品も日本語版も刊行できなくなったため、Luluでは今後、日本語作品は有料も無料もご利用いただけません。

清涼院: このコーナーもだいぶ終わりに近づいているので、ご安心ください。最後に、これまで読者の皆様にこの無料作品というのは本当たくさんダウンロードしていただいていますので、変更点を整理します。無料作品の英語版は、今後は電子書店では刊行できなくなりまし

た。The BBB のウェブサイト上では今後も無料作品の英語版をご提供するのですが、電子書店では英語の無料作品を出したくても出せないで、英語は今後、電子書店では有料版のみの提供となります。The BBB のサイト上で引き続きご提供する英語の無料作品と区別する意味で、電子書店で有料となる作品には特典原稿をつけます。The BBB で無料で入手できる作品が電子書店の有料版と内容が同じですと、有料で買ってくださる方に失礼になってしまうためです。ですから、特典原稿は要らないという方は、The BBB から無料でダウンロードしていただけますし、特典原稿を欲しい方は電子書店で有料版をご購入いただければ幸いです。この方法は秋月涼介さんの『The Sifted Vol. 9』という作品で初めてで試しまして、The BBB の次の新刊—おそらく年末年始くらいに出せると思いますが—『百名山ピークハント Vol. 6』でも同じ刊行方法を採用しています。

日本語版の無料作品は今後も Amazon、Apple、Kobo ではご利用いただけますが、内容を英語版と統一する必要があるため、特典原稿は無料の日本語版にはついていません。特典原稿の日本語版が欲しいという方は、英語の有料版をご購入いただいたら、その特典として日本語の特典原稿を差し上げる形になります。

Lulu では無料作品も日本語作品も刊行できなくなったので、Lulu では今後、日本語作品は有料も無料もご利用いただけません。このあたり、わけがわからないと思いますが、次が最終ページとなります。次のページをお願いします。

今まで無料だったシリーズの変更点をまとめると、以下ようになります。

・英語版

→ The BBB では今後も無料で入手可能（ただし特典原稿はなし）。
電子書店では有料（特典原稿あり）。

・日本語版

→ The BBB でも電子書店でも
今後も無料で入手可能（ただし特典原稿はなし）。
特典原稿つき英語版をご購入いただいた方に、
特典原稿の日本語版を差し上げます。

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: このコーナーの最終ページとして、今まで無料だったシリーズの変更点をシンプルにまとめると、このようになります。英語作品は、The BBB ウェブサイトでは今後も無料で入手可能、ただし特典原稿は無しです。電子書店では有料ですが特典原稿がつきます。日本語作品

は、The BBB ウェブサイトでも電子書店でも今後も無料で入手可能ですが、特典原稿は無しです。英語の有料版をご購入いただいた方に、特典原稿の日本語版を差し上げる形となります。

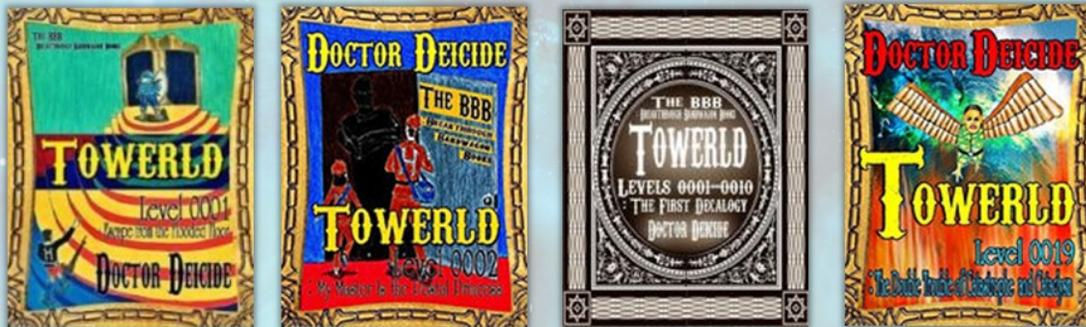
こうした説明をいきなり聞いても、皆さん、わけがわからないと思います。正直、僕たちも混乱しているところがありまして。ですが、これは The BBB スタッフや無料シリーズのある著者の方たちと何度も協議して、これが現時点ではベストの方法だと思っています。今後また電子書店の仕組みが変わるかもしれないんですが、とりあえず 2020 年 12 月現在はこうなっています、というご報告でした。

皆さん、この電子書店のご説明でかなり退屈されたんじゃないかと思いますが、これからは著者の方たちが順番に登場されますので、ご安心ください。最初のコーナーでだいぶ時間を使ってしまいましたので、おひとり 10 分強くらいの感じで進めていきたいと思います。では、ターニャ、次のスライドをお願いします。

3. エージェント工刀さん (The BBB 校正責任者)

エージェント工刀 (くぬぎ)

アメリカの名門大学を卒業し、
大学院で物理学の修士号を取得したバイリンガル。
謎の著者「神狩り博士」から『Towerld (タワールド)』の原稿を
託され、2013年にエージェントとしてThe BBBに加入。
以後、The BBBの校正責任者を務める。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: ここからは工刀 (くぬぎ) さんにもご登場いただきます。工刀さん、ミュート (マイク OFF) を解除していただけますか。

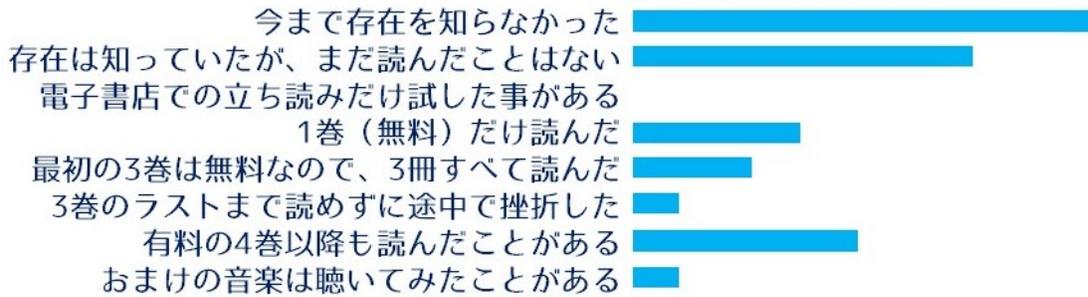
エージェント工刀 (以下、工刀) : はい、解除しました。

清涼院: 画面にプロフィールが出ています。エージェント工刀さんは、アメリカの名門大学を卒業し、大学院で物理学の修士号を取得したバイリンガルの方です。The BBB がスタートした直後の時期に、謎の著者「神狩り博士」から『Towerld (タワールド)』という原稿を託され、それをThe BBBに持ち込んで下さったんです。バイリンガルとして非常に高い英語力をお持ちで、海外に何十年も住まれた方なので、The BBBの校正責任者も、それ以降ずっと務めていただいています。で、画面の下に表示しているのが、『Towerld』の1巻と2巻、また、1巻から10巻までを1冊にまとめた合本もありまして、いちばん右にあるのが最新刊となる19巻で、もうすぐ節目の20巻が出るというところです。いきなり『Towerld』と言われてもピンとこない方も多いと思いますので、まずは、ターニャ、工刀さんからのひとつめの質問をお願いします。ちなみに、工刀さんからのご質問は、ぜんぶで3つあります。

ターニャ: では、ひとつめの投票を起動させていただきます。「『Towerld』シリーズを、皆さん、読んだことがありますか？」おひとつ、お選びください。

工刀さんからの質問（1 / 3）

『Towerld（タワールド）』シリーズを読んだことがありますか？



工刀: (表示された結果を見て) ええー、そんなぁ……！ これが現実だよ……。

清涼院: 今日は、The BBB のこともあまり知らない方が多いので。

工刀: あ、そうですね。はい。

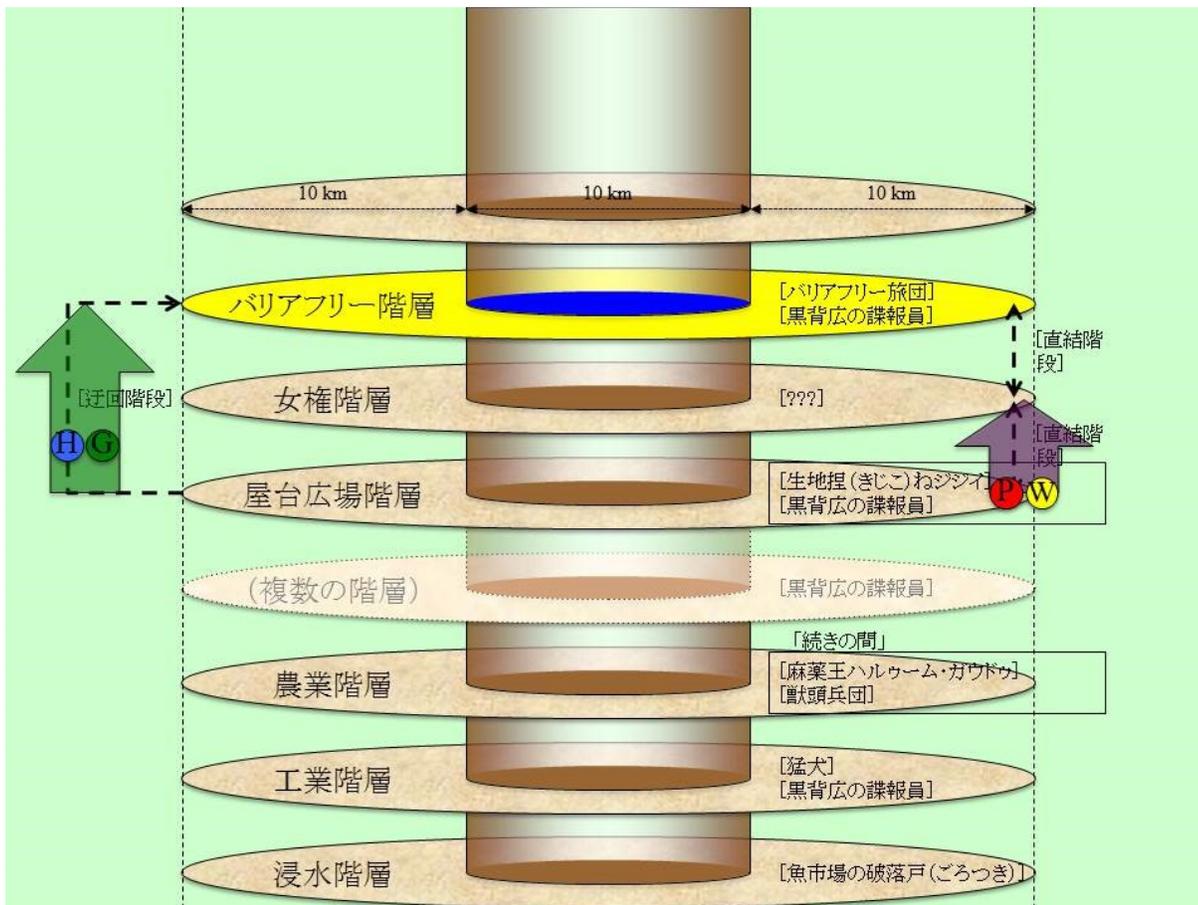
清涼院: 「今日の出演者を、おひとりも知りません」という方もいらっしゃいますので。

工刀: 初見さんですね。

清涼院: ですから、『Towerld』はまだ知らなくて当然で、他の著者の作品のことも知らない方が多いと思いますよ。逆に、読んでくださってくださっている方の存在が、すごく嬉しいですね。今まで知らなかった、ということは、これから知っていただければ良いのですから。

工刀: まあ、そういうことですね。

清涼院: では、ターニャ、スライドの次のページをお願いします。



工刀: おー、出た出た。

清涼院: 結局、「Towerld」ってなんなのか、と。ちなみに、日本語風にふつうに発音すると「タワールド」なんですが、英語的には「タワーウドッ」ですよ？

工刀: そうですね。

清涼院: 僕は、つい日本人風に「タワールド」と言っちゃうんですけど。工刀さんはバイリンガルなので、「タワーウドッ」かもしれないですけど。そして今、画面に出ているこれは、『Towerld』の8巻に出てくる階層の図です。どういう話かと言うと、要するに、「タワー」の「ワールド」なんですよ。塔だけで構成されてる世界で、塔の中で主人公たちが順番に階層を上がっていくという。塔の中で、主人公たちがさまざまな出来事に遭遇しながら、階を上がっていくんですよ、工刀さん？

工刀: そうですね、はい。いろんな仲間と出会ったり。多くの敵とか謎の勢力と遭遇して、いろんな出来事を経験して。最初、主人公は最下層に住んでまして。図には「浸水階層」と書いてありますが、その階層で生まれ育った主人公が、その階層が水浸しになって、そこから脱出するという形で上にどんどん昇っていくんですけども。昇っていくにつれて上の階に向かうモチベーションとか目標や目的も増えていく形になりますね。

清涼院: 浸水階層から始まって工業階層、農業階層とかいろいろあって、これは8巻の時点での全体図なんですが、先ほどもお話ししたように現在19巻まで到達していて。次はいよいよ20巻ということで、だいぶ話が進んでいます。このシリーズの特徴ですが最初の3巻を無料

で読んでいただけるので、もし読んだことのない方は、無料ですから、ぜひこの機会にお試しいただきたいなと思います。実はですね、The BBB の中でも特に、このあと登場される坂嶋竜さんとか秋月涼介さんが、けっこう『Towerld』を気に入ってくださっています。作者「神狩り博士」の正体は謎なんですけど、坂嶋さんとか秋月さんが妙にくわしいので、もしかしたら書いている張本人じゃないか、という疑惑もあるくらいで（笑）。そこで、工刀さんからのご質問ふたつめです。ターニャ、ご質問のふたつめを、お願いします。

ターニャ: はい、では、ふたつめの質問を行います。「謎の作者・神狩り博士の正体は誰、あるいは何だと思われますか?」、ということですね。

清涼院: 読んだことがないと、わかるはずがないのですが、勘でも大丈夫です。この投票は、お遊びのようなところもありますので。



清涼院: 自然現象が多いですね。自然現象が多いというのは、すごいですね。

工刀: 自然現象なんですよ、もう。あの“天災”とかね。

清涼院: これ、実は過去の「Cast Party」無料 eBook でも話題が出ていました。「『神狩り博士』って、自然現象じゃないのか」という仮説が出たんですけど、それを読んでくださった方たちの投票かもしれないですね。秋月さんと僕も、作者候補に投票してもらっていますね。僕は本当に、僕が作者であって欲しいと願っているくらいなんです。そのくらい『Towerld』が好きで。作者が自分だったらいいのにな、といつも思ってまして。だから、僕が多重人格で書いて工刀さんに送っているのかも、という妄想も実はしてたりするんですけど（笑）。工刀さんは、ちなみに、神狩り博士は誰だと思っているんですか? ご本人は否定されていますけれど。自然現象ですか?

工刀: まともな人間が書いたとは、ちょっと思えないんで。自然現象かな、と。

清涼院: 柴犬モモ先生、というのがいいですね。

ターニャ: モモに1票入った! 嬉しい。

清涼院: 柴犬のモモ先生があの内容を書いていたら、すごいですね。

ターニャ: わんわん（笑）。

清涼院: 確かに、ちょっと人間離れした感性なので。可能性がないとは言えないですね。では、このまま一気にご質問3つめもお願いします。工刀さんからの最後のご質問ですね。

ターニャ: はい、起動しました。「『Towerld』が20巻に到達することについて、どう思われますか?」皆さん、ひとつ、お選びください。

工刀: この質問の回答次第で、今後の方向性が決まるかもしれないですね。

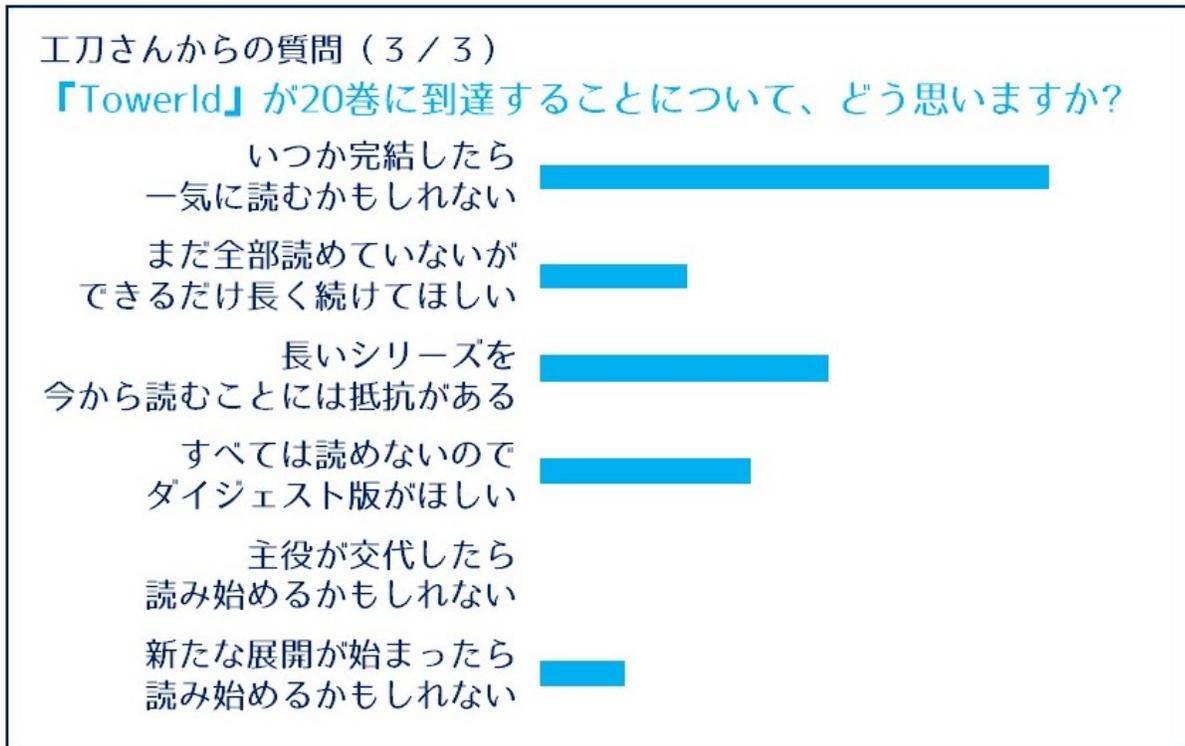
清涼院: 神狩り博士にどう伝えるか、という問題もありますけれど。あ、そうか。工刀さんはメールのやりとりはされてるんですよね?

ターニャ: すみません。ちょっと投票が……私の設定が誤ってしまったらしく、申し訳ないんですけども、今、停止しちゃったんですね。フリーズしました。

清涼院: フリーズしたら仕方ないです。大丈夫です。

ターニャ: ですので、この状態で結果を発表させてください。申し訳ございません。

清涼院: そのほうがZoomらしくて良いです。



清涼院: 工刀さん、どうですか、この意見は。「完結したら読むかもしれない」という意見が多いですね。

工刀: ということは、「完結させろ」という意味ですか?

清涼院: いや、でも、これはわかりますよ。漫画とかでも途中で中断されるのが嫌だから、完結してから読むことはありますし。今年は『鬼滅の刃』が大ブレイクしましたけれど。途中だと嫌だと思ってる人はいるのは理解できますよ。

工刀: あー、漫画の『ONE PIECE (ワンピース)』とか、いつまで続くのかな、と思わないこともないですね。

清涼院: そうですね。僕は『ONE PIECE』が好きなのですが、さすがに、いつまで続くのかなとは思っていますし (笑)。

工刀: もしかしてギブアップ? 途中で挫折されたんですか?

清涼院: いや、まだ読んでますけどね。

工刀: あ、読んでますか。けっこう気合いが要りますからね。

清涼院: 『Towerld』シリーズについては、10巻ごとに合本を出すので、『Towerld』の中の10巻ずつのシリーズで区切っているとは言えます。まずは10巻までは完結していますので、10巻まで読んでいただくとか。10巻セットになっている合本がありますので。無料の3巻まで読んでいただいて、気に入ってくださった方は、ぜひ読んでいただきたいなと思います。

工刀: あと、日本語版と英語版の両方がありますので、これを機会に英語版を日本語版と同時に並べて読めば、いろいろ勉強にもなると思います。

清涼院: まあ、英語は、ちょっと難しいと感じる人も多いと思うんですけど、ぜひ読んでいただきたいと思います。もうひとつ、『Towerld』シリーズの特徴として、特典の音楽というのが途中からついていまして。10巻以降はThe BBBサイトの『Towerld』のページを見ていただくと、ウェブサイト上で聴ける特典音楽があります。ボタンを押すだけで聴けますし、気に入っていただいたらダウンロードも無料できますので。たとえば、10巻以降の音楽を聴いていただいて、この世界観が気になるな、という楽しみ方もできると思います。で、あつという間なんですけど、工刀さん、もうすぐ持ち時間終わりそうなので、なにか最後に言いたいことがあれば。

工刀: あ、もう最後ですか!?

清涼院: もう13分くらい経っていますので。あつという間ですよ、10分ちょっとというのは。エージェントとして、熱い想いを。

工刀: いや、でも、時間がない時に。「時間がない」と言ってる時間がないのか。ほんとは、どういう世界かというのを、簡単に説明する予定だったんですけども。では、ダイジェスト版というか、まだ説明されていない部分を、ちょっと追加する、という感じですかね。

あの、簡単に言いますと、先ほども説明された通り、Towerが世界という「塔世界」であつて。それを下のほうから主人公やその仲間たちがどんどん上層階に向かって行くんですけども、謎がどうしても増えていきます。まず最初に謎のひとつは、「Towerld」は誰がつくったのか? いつ、どこで、誰が、何のために「Towerld」を創造したか? 創造主は誰か?

「Towerld」という世界に関する謎です。それからもうひとつは、主人公が上に昇っていくにつれて、上層階に向かっていくんですけども、途中で謎の勢力みたいなものが彼の邪魔をするわけですよ。逆に、下の階層へと押し戻そうとします。そこでどうしても湧き起こる疑問というのは、主人公は何か特別な存在なのか? 主人公は、謎ですね。彼の名前と伝説の人物の名前がそっくりなので、もしかして、彼の出生と世界の創造と何か深い関係があるのか?

まとめますと、世界の謎と主人公の謎のふたつが、どうしても浮き彫りになってきます。で、これからどんどん読み続けることによって、20巻まで出るんですけども、これからも続くと思います。読み続けるうちに、そのふたつの謎がどんどん解けていくかもしれませんし、そうはならないかもしれませんし。また新たな謎が出るかもしれないんですけども、それを頭の片隅に置きながら読み続けると、これから読む楽しみも増え続けると思いますので、そういうところで、よろしく願いいたします。

清涼院: わかりました。ありがとうございました。ちょうど15分くらいです。これで、工刀さん、ありがとうございました。何か気になったことある方は、最後にQ&Aセッションもありますので。工刀さん、本当に、ありがとうございました。

工刀: はい、どうも。

清涼院: ターニャ、スライドの次のページを、お願いします。

ターニャ: 承知いたしました。画面共有いたします。

4. 坂嶋竜さん（評論家）

坂嶋竜（さかしま・りゅう）

- 2016年、福山ミステリー文学新人賞で最終候補になる。
- 2018年、メフィスト賞に内定するも、担当者の異動により取り消し。
- 2019年、メフィスト評論賞 法月賞 受賞！



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: さあ、では、ふたりめの出演者にご登壇いただきましょう。坂嶋竜さんですね。坂嶋さん、よろしくお願いします。

坂嶋竜（以下、坂嶋）: よろしくお願ひします。

清涼院: 坂嶋さんは、僕がリアルで知っている中で、いちばん古くからおつきあいのある方で。坂嶋さん、今日の出演者の中では最年少なんですけれど、僕は、実は20年前から知っています。画面を今、皆さん、ご覧いただいていますかね。表示されていますか。坂嶋さんは、2016年に「福山ミステリー文学新人賞」で最終候補になりました。あと一步で作家デビューというところでした。その翌年、2017年に実は前回の「Cast Party」にも出ていただいたんですね。そして2018年、「メフィスト賞」に内定するも担当者の異動により取り消し。2019年には、「メフィスト評論賞」の「法月（のりづき）賞」受賞。このあたりをまず伺ってみたいです。坂嶋さん、まずはこの2018年、メフィスト賞内定取り消し、というショッキングな……。

坂嶋: ショックでしたね……（苦笑）。

清涼院: このお話を聞かせてください。

坂嶋: 元々、「福山」で最終候補に残った時に、「文三（※メフィスト賞を募集している講談社文芸図書第三出版部）」の部長がすごくホメてくれたらしい、という話を聞きまして。じゃあ、（文芸誌の）『メフィスト』に送ってみようと思って、メフィスト賞らしいものを書いて

送ったら、連絡が来て。打ち合わせをして。「うまく直せたら受賞」という話だったんですけど、直し始める前くらいにその方が異動されて、担当を引き継いだか引き継いでないのかみたいな感じになって、結局、受賞の話がなくなった……という感じで。

清涼院: ご存じでない方のためにご説明しますと、今日は、僕も含めてメフィスト賞作家が何人も参加してくださってまして。『メフィスト』というのは文芸誌で、この画面の下にも表示されています。現在は電子書籍のみになってしまっているんですけど、この『メフィスト』誌で原稿募集して、編集者たちが審査して、気に入った人がいたらデビューする、という賞なんです。坂嶋さんは、今、話してくださったように、すごく惚れ込んでくれた担当者がいたのですが、異動になってしまった、という。

坂嶋: そうですね。

清涼院: 本当に、それだけで本が出ないということが、実はあるんですね。読者の方からすると、「ええっ、そんな無責任な話があるの!？」と思われるかもしれないですけど。そういうことのある世界で。デビューした後でも、担当者の異動で本が出せなくなることは、ありますからね。僕は、その坂嶋さんのお話を伺っていたので、ついに昔から知ってる坂嶋さんがメフィスト賞受賞かと思って、めっちゃめっちゃ気持ちが盛り上がっていたんですけど。内定取り消しになってしまって残念で。もちろん、今後もトライされるんですよね？

坂嶋: はい。今、書き始めようとしている作品も、『メフィスト』に送ろうと思っていますし。

清涼院: ただ、その『メフィスト』が休刊になるということで……。

坂嶋: 今月出たのを最後に、2号休んで1年後にまた再開、という。

清涼院: その間も（メフィスト賞の）原稿募集は受けつけているんですか？

坂嶋: 募集は、ずっと受けつけていて。ただ、いつもだったら4か月に1回なのが、今後は半年に1回の座談会で（新しいメフィスト賞が選ばれる）、という感じですね。

清涼院: じゃあ、『メフィスト』がまたリニューアル再開した時に、デビューできるといいですね。今のうちに作品を書いておいて。

坂嶋: そうですね。

清涼院: 今日、もしかしたら、そういう方も一ライバルもいらっしゃるかもしれないです。で、坂嶋さんがその内定取り消しがあって残念だったんですけど、去年ですね、メフィスト評論賞の法月賞受賞。この画面左下に表示されてる『メフィスト』画像の右下に「メフィスト評論賞受賞作一挙掲載」とありますが、ここですね？

坂嶋: そうです。それに載っています。

清涼院: 僕も読ませていただきました。そして、坂嶋さん、この画面右下の『Web本の雑誌』と右上の『本の雑誌』について、ご説明いただけますか？

坂嶋: あ、はい。ちょうどメフィスト評論賞が載って、そのちょっと後に、本の雑誌社から話が来まして。僕の本職が書店員なので、「本屋大賞」に毎年投票していたんですけど、そのコメントを見た編集者から連絡が来まして。「横丁カフェ」というネットで1年間、月イチで

書評を書いてくれないかとのことで、今、それを続けているところです。また、同じ出版社から年間のベスト作品をコラムとして書いてくれないかという依頼があり、画面右上にある『本の雑誌』1月号に載っています。

清涼院: それは、メフィスト評論賞を受賞されたことを受けての依頼ではなく、本屋大賞のコメントが良かったということですか？

坂嶋: そうですね。コメントは3年くらい書いていたのですが、それを見て連絡が来て。「評論賞を獲ってます」と言ったら編集者にも驚かれたので。

清涼院: じゃあ本当に偶然、というか……。

坂嶋: たまたまタイミングが重なって。

清涼院: 違った形で実力認められたのは嬉しいですね。あと、ほかにも今年か去年、何かありましたよね。何か賞を獲られてませんでしたっけ？ あのWeb上で応募していた。

坂嶋: ああ。『法廷遊戯』という、いちばん新しい(第62回)メフィスト賞作品の書評コンテストがあって。それで優秀作品賞に選ばれました。

清涼院: 素晴らしいじゃないですか。僕は坂嶋さんには小説家としても期待しているんですけど、評論のほうが次々に結果が出ていますね。今後、小説と評論の理想の割合としては、どういう感じですか？

坂嶋: まあ、基本は小説に軸足を置いて、ですね。ただ、なんだろう。今やっている1年間の連載も来年4月で終わるので。それ以降の評論活動が特に白紙なので、そこは何かいろいろ探して。書店員としての立場を利用して、いろいろやっていけたらと思っています。

清涼院: ありがとうございます。今、実は書店員さんであるというお話が出ましたけれど、今日、坂嶋さんから書店員さんらしいご質問をふたついただいています。今からふたつ連続でやりたいと思います。では、ターニャ、質問をお願いしますか。まず、ひとつめ。

坂嶋竜さんからの質問 (1 / 2)

コロナ禍以降、購入する本のうち、リアル書店と電子書籍の割合に増減はありましたか？

リアル書店で買う本が増え
電子書籍が減った 

リアル書店で買う本が減り
電子書籍が増えた 

ほとんど変化はない 

清涼院: 坂嶋さん、いかがですか？

坂嶋: ちょっと待ってください。

清涼院: あ、結果が画面にまだ出ていないですか？

ターニャ: いちばん多いのは「ほとんど変化はない」。あ、（一般参加者の）信国（のぶくに）さんからチャットのコメントで、「ネット通販で紙の本を買う機会が増えました」と。

清涼院: 信国さん、貴重なご意見ありがとうございます。坂嶋さん、書店員さんとしては、いかがですか？

坂嶋: いやあ、でも、僕自身は、「ほとんど変化はない」を選びました（笑）。

清涼院: 変化ないんですか！（笑）このような質問をしながら、変化はなかったという……。

坂嶋: もしかしたら電子書籍のほうが増えたのかな、という気はしていたんですが。

清涼院: 電子は増えそうですけど、意外ですね。ではテンポ良く、次の質問もお願いします。坂嶋さんは質問ふたつなので、これが坂嶋さんから最後の質問です。

ターニャ: では次の質問に移りたいと思います。「小説家絶賛!」「評論家絶賛!」「書店員絶賛!」の中では、どれが購買意欲が高まりますか？

坂嶋竜さんからの質問（2 / 2）

「小説家絶賛!」「評論家絶賛!」「書店員絶賛!」の中では、どれが購買意欲が高まりますか？



坂嶋: 書店員なんだ……。

清涼院: 坂嶋さん、いかがですか？

坂嶋: いや、書店員なんですネ。

清涼院: 僕も実は、「書店員」に投票しましたね。

坂嶋: あ、そうなんだ。

清涼院: なんとなくですけどね。ほかの方のご意見も、あとで伺ってみたいのですが、まあ、小説家と評論家って、なんかつながってそうなので。仲間内でホメてそうという印象があるんですよ（笑）。書店員さんのほうが正直かな、みたいナ。

ターニャ: 藤枝さんから「書店員さん、フラットだから」とのコメントが。なるほど。

坂嶋: ええーっ……

清涼院: 坂嶋さん、「ええーっ」って！ 今、重苦しいため息をつかれましたけれども。

坂嶋: 僕としては、小説家とか評論家のほうを今まで信頼していましたので。書店員の立場から見ると、書店員ってそんなに信頼できるのかな、と。

清涼院: あー、皆さん、そうかもしれませんね。僕は作家なので、作家さんの意見は信用できない、という味方もあって。つきあいでホメる、とか。だから皆さん、自分の所属してるところでそう思っちゃうんでしょね。

坂嶋: そうか……。いや、ありがとうございます。

清涼院: こちらこそ、ありがとうございます。では、スライドを戻してください。で、坂嶋さん、今で10分を超えたんですけども、何か言いたいことがあれば、お願いします。

坂嶋: 言いたいことは、とりあえずネットの書評は「横丁カフェ」で検索すると出てくるので、それを読んでいただけたら嬉しいです。

清涼院: 今、連載中ですので。この「横丁カフェ」ですね。『Web本の雑誌』の。

坂嶋: もう半分以上、終わっちゃいましたけど、来年までがんばりますので、読んでいただけたら嬉しいです。あとはまあ、小説のほうも、あたたかく見守っていただければ。

清涼院: そう、だから2018年に坂嶋さんのメフィスト賞が決まりそうだったので、あそこでもしデビューしたら本当に、坂嶋さんお祝いキャスパにする予定だったんですよ。坂嶋さんとはそういう話もしていましたし。今日、メフィスト賞作家さんが何人もいらっしゃいますから、坂嶋さんもそこに加わっていただけたら、そんなにも嬉しいことはないですから。未来のメフィスト賞作家になっていただけることを期待していますし、それは今日参加して下さってる方の中にも、もしかしたらメフィスト賞を獲る方がいらっしゃるかもしれないです。では、坂嶋さん、それでよろしいですか？

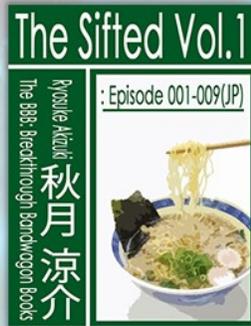
坂嶋: はい、ありがとうございました。

清涼院: ありがとうございました。では、次のコーナーに行きたいと思います。ターニャ、スライドの次のページお願いします。次は秋月涼介さんにご登場いただきます。そして、秋月さんのコーナーが終わったあとに、10分間、休憩にしたいと思います。なので、休憩前最後のコーナーです。

5. 秋月涼介さん（作家）

秋月涼介（あきづき・りょうすけ）

2001年、『月長石の魔犬』で第20回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは連作ミステリーの『The Gifted』シリーズと、グルメリポート『The Sifted』シリーズを継続中。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 秋月さん、大丈夫ですね？

秋月: はい。

清涼院: ちなみに、秋月さんは覆面作家ですので、今日は画像なしです。秋月さんは、2001年、『月長石の魔犬』で第20回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは連作ミステリーの『The Gifted（ザ・ギフトィッド）』シリーズとグルメ・リポート『The Sifted（ザ・シフティッド）』を継続中。画面のいちばん左下が『The Gifted』の1巻ですね。そのとなりが『The Gifted』の最新刊である8巻。そして、『The Sifted』のVol.1とVol.9が並んでいます。『The Sifted』のほうは無料です。先ほど佐久間さんからのご質問で「Facebook連載があるから」という文言がありましたけれども、『The Sifted』は毎週土曜日にThe BBBのFacebookページで連載していただいています。今、連載している『The Sifted』の連載がEpisode 99で。エピソード1話ごとに3週間かけていただいているんですけど、Episode 100がもう目前に迫ってしまっていて、で、秋月さんにはここまで100のエピソードを300週間以上、実は1度も休まずに続けていただいています。秋月さん、本当にありがとうございます。

秋月: いえいえ、こちらこそ。長いあいだ書かせていただいて、ありがとうございます。

清涼院: 秋月さんは僕の英語学習仲間でもあるんですが、TOEICも皆勤賞で毎回受けられていたり、とにかくこの方の継続力はすごいなと思っています。今、『The Sifted』の話を読みました。『The Sifted』というのはグルメ・リポートなんです。秋月さんが『The Gifted』の登

場人物たちと実在のレストランを訪れたという設定で、毎回その実在のレストランを紹介していただいたり、最近は秋月さんの自炊シリーズがあったりとか。コロナ禍で外出できなかったので自炊編になったんですね？

秋月: あ、そうですね。久々に料理などをつくってみました。

清涼院: 秋月さんからユニークなご質問を3ついただいているので。まず、ターニャ、ひとつめをお願いします。ひとつめは『The Sifted』関係です。

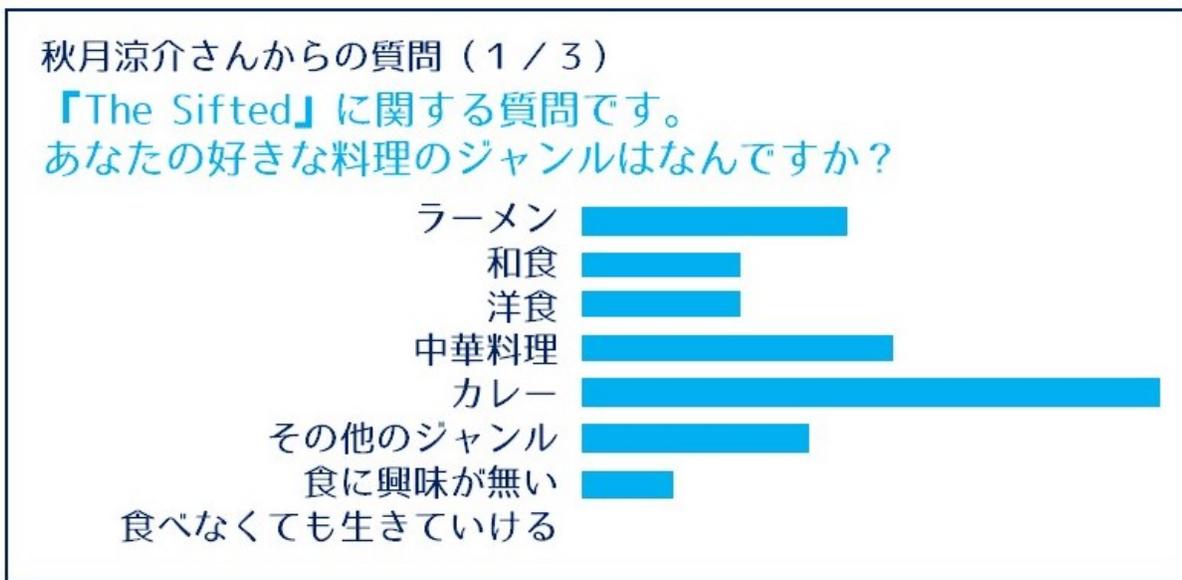
ターニャ: 投票開始しまーす。秋月さんからのご質問です。『The Sifted』に関して、「あなたの好きな料理のジャンルは何ですか?」。なんだか、おなかが空いてきそうなテーマですね。

清涼院: そう。皆さん、こういうのを見ると、おなか空いちゃいますよね。僕も『The Sifted』を校正していると、急にその料理が食べたくなったり、とか。

秋月: 流水さんは「夜中にちょっと抜けます」とか、ありますよね(笑)。

清涼院: 夜中に仕事をしていると、急にラーメン食べたくなったりとかね(笑)。

ターニャ: では、結果を共有させてください。こうなりました。



清涼院: 秋月さん、いかがですか？

秋月: カレーが多いんですね。ラーメンが多いかな、と思ったんですが。

清涼院: 意外にラーメンが少ないですね。

ターニャ: 藤枝さん、カレーのコメントありがとうございます。

清涼院: 秋月さん、この「食に興味ない」とか、「食べなくても生きていける」って、どういうことですか？

秋月: いや、最近、YouTube を観ていたら、「食べなくても生きていける人」というのが出てきまして。本当かな、と思ってるんですけど。

清涼院: そんな人がいるんですか？

秋月: 「ブレサリアン」という、呼吸と気を取り込むだけで生きている人らしくて。ちょっと面白いな、と思って。選択肢に入れてみたんですが（笑）。

清涼院: それは、やばいですね（笑）。そんな人がいるんですか。

秋月: らしいです。

清涼院: 少なくとも、今日の出演者の中には、そういう方がいなくて良かったですね。良かった、というのも変ですけど（笑）。

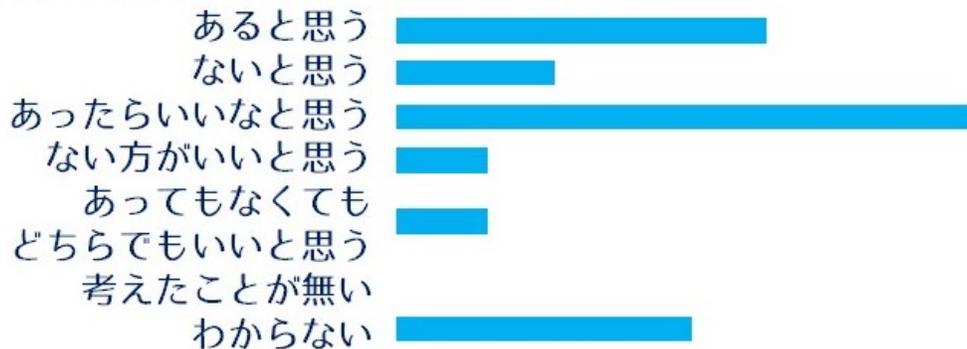
秋月: そうですね（笑）。

清涼院: 投票結果、ありがとうございます。そのまま、ふたつめのご質問もお願いします。ふたつめは『The Gifted』についてです。

ターニャ: 秋月さんからのふたつめのご質問を出しました。今度は『The Gifted』に関する質問です。「死後の世界や輪廻転生は、あると思いますか？」

秋月涼介さんからの質問（2 / 3）

「The Sifted」に関する質問です。
死後の世界や輪廻転生があると思いますか？



秋月: 意外と「あったらいいな」と思う人が多いんですね。

清涼院: これは夢があると言うのか、何と言うのか。まだ『The Gifted』をご存じでない方は、「なんだ、この質問は？」と思われたかもしれないですけど。秋月さんはミステリー作家として活動されていますが、実は、この『The Gifted』シリーズの特徴というのは、スピリチュアルな話題が多いんですね。そのあたりは人それぞれ、好き嫌いがあると思うのですが。僕はスピリチュアルが大好きで、秋月さんとも元々、そういう話をしていて。秋月さんの特技は、やっぱり、グルメとスピリチュアルだな、と。

秋月: 気になってますね（笑）。

清涼院: スピリチュアルへの情熱が、もうミステリーを凌駕（りょうが）している、と言いますか。かなり好きですよ、秋月さん？

秋月: そうですね。ちょっと……まあ、なんだろう。好きと言うか、興味ですよ。本当にあるのかな、というところですね。

清涼院: 世界の仕組みに興味がある、ということは、おっしゃっていましたね。

秋月: そこはありますね。

清涼院: それは、信じる、信じないに関係なく、皆さん興味はあるでしょうね。どうなっているのか。

秋月: 本当に死んだら何もないのか。本当に転生してくるのか、というところに興味があつて。

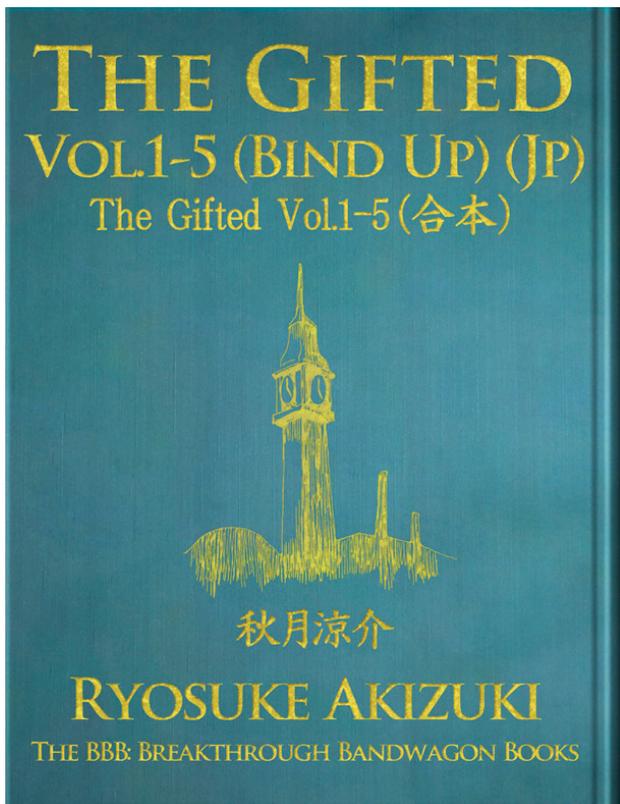
清涼院: 信じるかどうかは別として、誰しも、ある程度の興味あるテーマでしょうし。秋月さんのユニークなのは、それを『The Gifted』というミステリー小説に—完全にミステリーなんですけれど—その中にうまくスピリチュアルを盛り込んで、挑まれてますよね。

秋月: 世界設定で、もう死後の世界や輪廻転生がある、と。いわゆる今のスピリチュアルと言われているものが実在するという世界設定の中で書いたものなので、そうなっています。

清涼院: そして、秋月さんからつい先日、最新刊『The Gifted Vol. 9』のお原稿をいただきました。ありがとうございます。

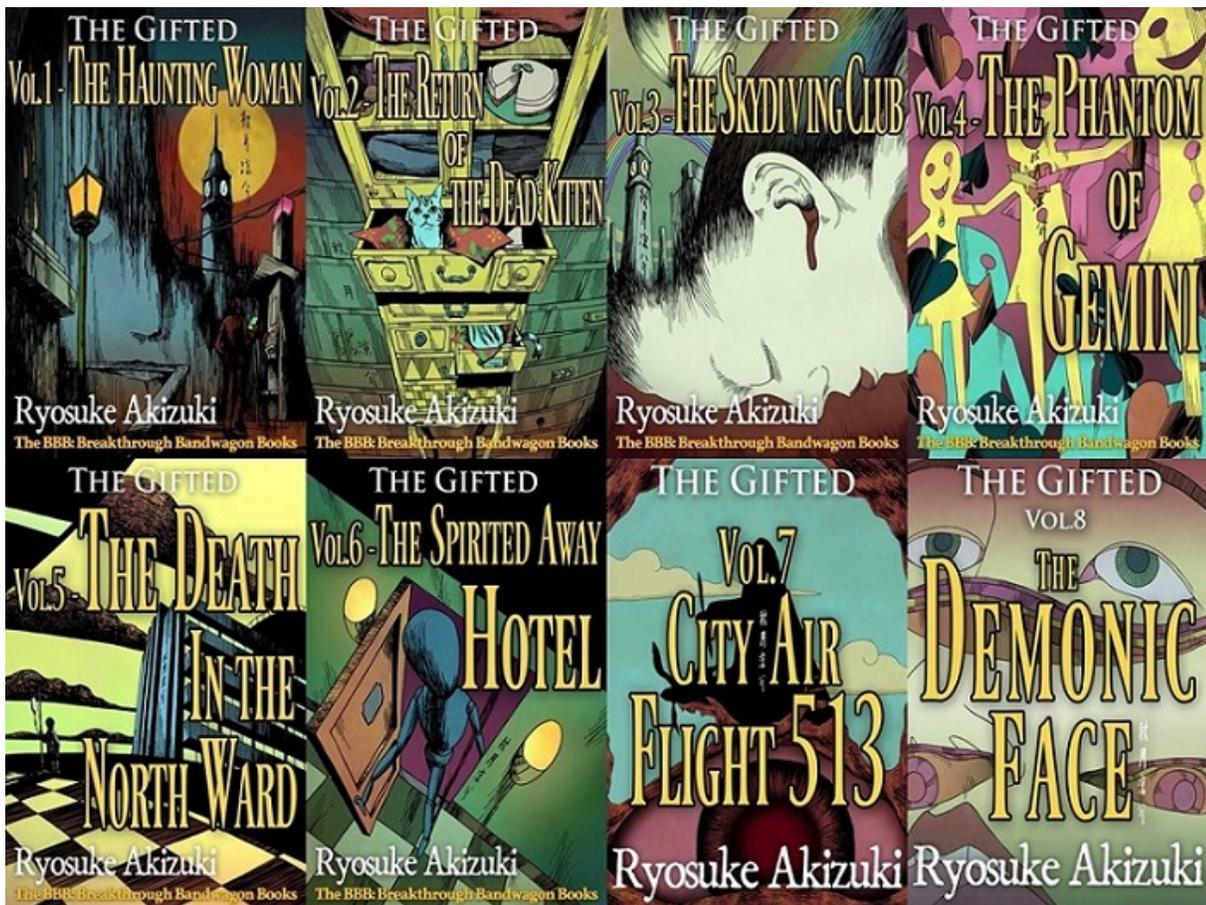
秋月: 読んでいただいて、ありがとうございます。

清涼院: 秋月さんをお願いして、前回8巻で、ラスボス（最後の敵）を出していただいたんですね。今までも毎回面白かったものの、特にストーリーのゴールというのは設定されていなかったんです。今、スライドを出していただきましたけれど、前回この8巻の『The Gifted Vol. 8 – 悪魔の貌（かお）』で、初めてラスボスが出てきたんですよ。で、その途端に、いきなり緊張感が高まって。うわー、これ、主人公たちとラスボスの戦い、どうなるんだと思っていたら、秋月さんが最近書き上げてくださったVol.9で、さらにそのラスボスとの戦いが進展しまして。最後は、もう、これは次回でシリーズ完結するしかないんじゃないか、というくらいの壮絶な終わり方をしています。次回どうなるんだろうと、楽しみでもあり。『The Gifted』シリーズを追いかけてくださってる方は、ぜひ楽しみにお待ちいただきたいです。『The Gifted』はVol.1からVol.5までを1冊にまとめた合本があるのですが、次はVol.10に達した時にも、また2冊目の合本を出そうと思っています。



清涼院: そして、秋月さんからの3つめのご質問に進みたいのですが、実は、3つめのご質問というのは、先にネタバレしておかないといけなくて。どういうことかと言いますと、
「『The Gifted』シリーズの8冊の表紙のどれが好きですか？」という秋月さんからのご質問なんです。どれが好きかと言われても、表紙を見たことがなければ投票できないので、投票は一瞬で済むのですが、画面に表示されている8冊の表紙を見て、皆さん、どれがお好きかを選んでいただけますか。Vol. 1、2、3、4、5、6、7、8の数字が表紙に載っていますので。フィードバックで選んでいただいて大丈夫です。

ターニャ: 左のいちばん上が Vol. 1 で右に Vol. 2、3、4 です。2段目は左から Vol. 5、6、7、8の順番となっています。



清涼院: では、ターニャ、投票画面を出していただけますか。

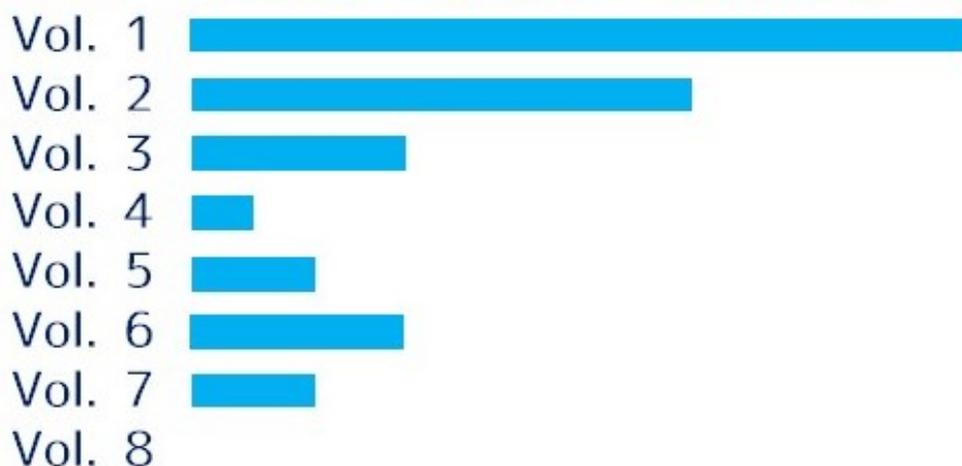
ターニャ: いったんこの画面共有を停止いたします。

清涼院: 皆さん、お好きな表紙を選べたでしょうか。

ターニャ: 先ほど見ていただいた『The Gifted』の表紙で、お好みのものはどれでしょうか。おひとつ、お選びください。あ、(一般参加者の)明神(みょうじん)さんは、1と6で迷っておられるんですね。……では、投票終了します。結果は、こんな感じでーす。

秋月涼介さんからの質問（3 / 3）

『The Gifted』の表紙で一番好みなのは？



清涼院: あー、Vo. 1 が、すごい人気ですね。Vol. 1 と Vol. 2 が。

秋月: うん。

ターニャ: もう 1 度、表紙を見ていただきたいので、画面共有します。

清涼院: 印象的なのは、Vol. 8 だけ、ひとりも投票していなかったんですね。秋月さん、いかがですか？

秋月: やっぱ、Vol. 1 はインパクトがすごいんだな、と思いますね。今までの佐久間さんの画風とはまた違った味があって。僕も好きなんですよ。

清涼院: 僕も、Vol. 1 がベストかなと思いますね。客観的に見た時に。Vol. 1 の時は、佐久間さんは本当に未知の領域にトライされた、という感じがして。

秋月: 自分は密かに、Vol. 5 も好きなんですよ。哀愁の漂う感じが、すごく好きで。Vol. 5 の表紙は今、自分のケータイの待ち受け画面になっています。

清涼院: 毎回違った良さがありますね。あと、画力はすごいんですけど、Vol. 8 は、ちょっと気持ち悪いんじゃないかな、というのがあって。秋月さんとも、そういう話はしましたよね。Vol. 8 の表紙は、怖いんじゃないかと。

秋月: 自分は Vol. 7 の……あ、Vol. 6 からかな。Vol. 6 から日本語版と英語版で表紙がちょっと変わってくるんですけど。Vol. 7 の日本語版は異世界を飛んでいるような感じなんですけど、ケータイの待ち受け画面にした時に、この目に見られているような感じがして、ちょっとドキッとした記憶があるんですよ（笑）。この Vol. 7 の表紙の下のほうに、悪霊の目みたいなのがありまして。

清涼院: あー、そうですね。気づくと怖い、というのはありますよね。Vol. 2 も、よく見ると戸棚の中に死体があるという……。佐久間さんの絵は仕掛け満載なんですよ。Vol. 1 も実は

「隠し絵」になっていることに、皆さん、気づかれましたかね。ぱっと見ではわからないけれど、よく見ると女の人の顔が浮かび上がってくる、という。

秋月: Vol. 3 だと、女性の頭の奥に夢の世界が描かれている、とか。

清涼院: 毎回趣向が満載で、僕も表紙をいただくのがすごく楽しみです、作品内容にもマッチしていて、本当にありがたいです。時間的に良い感じですが、秋月さん、なにか言っておきたいことがあれば、お願いします。

秋月: Vol. 1 から Vol. 3 まで、どんな感じがまだよくわからなかったので抑えぎみなんですけど、Vol. 4 くらいからちょっとずつ解放されていくというか、（スピリチュアル的な話を）書き始めてるので、興味がある方は5巻までのセットで読んでいただくと、後半はスピリチュアルに入っていく感じになると思います。

清涼院: そうですね。ミステリー好きにはもちろんですけど、もしスピリチュアルにちょっとでも関心ある方であれば、ぜひそちらも読んでいただきたいです。最近は本当にスピリチュアルの割合が増して、面白いことになっていますから。

秋月: それは本当に、好きな人向けかもしれないですけどね（笑）。

清涼院: やっぱ、好きな人はいると思いますし。秋月さん、よろしいですか？

秋月: はい。ありがとうございました。

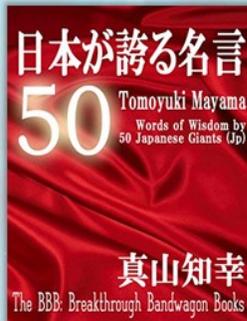
清涼院: ありがとうございます。では今から10分間休憩を取りますので、皆さん、お手洗いなど用事のある方は済ませてください。Zoom は、このままで大丈夫です。

ターニャ: Zoom はログインされたまま、お席を離れていただいて大丈夫です。

6. 真山知幸さん（偉人本&名言本著者）

真山知幸（まやま・ともゆき）

出版社勤務中から著作活動を開始。
別名義も含めると、40作品以上の著作がある。
2018年に発表した
『ざんねんな偉人伝』『ざんねんな歴史人物』が20万部突破。
2020年に独立し、専業作家となる。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: (終了予定時刻の) 17時から大幅に延長しそうな感じですが、皆さん、いつお手洗いに行っても大丈夫ですので。引き続き、よろしくお願いします。

ターニャ: よろしくお願ひいたします。

清涼院: 真山さんのスライドをお願いします。真山さんは今日の出演者の中で、唯一の初出演となります。ほかの皆さんはThe BBBのイベントに何回か出てくださったことがあるのですが、真山さんは唯一の初出演ということで、かなり貴重な存在です。経歴と、おもな著作が画面に出ていますね。真山知幸さんは、出版社勤務中から著作活動を開始され、別名義も含めると40作品以上の著作があります。2018年に発表した『ざんねんな偉人伝』『ざんねんな歴史人物』が20万部突破。2020年に独立して専業作家とされました。画面左下にある『日本が誇る名言50』は、The BBBから出させていただいた本です。実は、真山さんとも僕はおつきあいが長くて。

真山: うん、そうですね。

清涼院: 今日は僕が昔、運営していた「社会人英語部」というTOEIC学習サークルの人たちも何人か参加してくれているのですが、彼らも驚くかなと思うのは、真山さんは、実は、英語部の初期メンバーなんですよ。

真山: 初期メンですよ。そうだ。

清涼院: 超・初期メンバーですよ。

真山: すぐ辞めましたっけ? (笑) ちょっとやってみましたね。

清涼院: 辞めた、と言いますか、忙しくなられて。で、真山さんを僕は「偉人本・名言本著者」と紹介させていただいたんですが、すべてと言っていいんでしょうか。すべてではないかな。でも、偉人本と名言本がメインですよ?

真山: そうですね。はい。ほとんどそうだと思います。

清涼院: そこで、真山さんからご質問をふたつ、いただいています。ターニャ、真山さんからのご質問をふたつ順番に表示していただけますか? まず、ひとつめから。そのご質問を見ていただくと、真山さんの個性がわかりやすいと思いますので。

ターニャ: 画面に出ましたかね。真山さんからのご質問です。「もし読まれるとしたら、どちらのテーマの本ですか?」

清涼院: これ、究極の選択のような……。

真山: 確かに (笑)。こうして見ると、難しいかもしれないですね。どっちの切り口の本、と言うか。まあ、両方の要素はあると思うんですよ。

清涼院: 実際、真山さんは両方の本を出されてますからね。正直、世の中はどちらが好きなんだろう、というのは、確かに気になりますね。

真山: タイトルにどちらが来るといいのか、みたいな感じで。どちらにしても、内容的には、両方入ってきちゃうんですけどね。

ターニャ: 結果を共有します。

真山知幸さんからの質問 (1 / 2)

もし読むならどっちのテーマの本ですか?

偉人



名言



清涼院: 真山さん、いかがですか?

真山: お一、けっこう競 (せ) ってますね。

清涼院: 競ってますけど、偉人の本が多いですね。

真山: なるほど。ありがとうございます。

清涼院: もうひとつのご質問も、連続でやってしまいましょう。

ターニャ: 続いては、真山さんから、ふたつめのご質問です。「皆さんが読みたい人物のジャンル、切り口を教えてくださいませんか」おひとつ、お選びください。

清涼院: これは難しいな……。

真山: そうですね。これも、どれも実際に出したことがある本なんですけどね。

清涼院: そうだ。これ、真山さんが出されてる本のジャンルですよ。

真山: 時代によっても変わってくるのかな、という気もしますね。このコロナ禍で、どういったものを、みんな読みたいのかなと、気になりましてね……。

ターニャ: 全員投票しました。結果、こうなりましたー。

真山知幸さんからの質問 (2 / 2)

あなたが読みたい人物のジャンル (切り口)を教えてください。

偉人、天才	██
経営者、大富豪	████████████████████████████████████
革命家、アウトロー	██
戦国武将、三国志	██

清涼院: おー、「革命家、アウトロー」が多い！

真山: 今日、集まっているメンバー、そんな感じがしなくもないですね (笑)。

清涼院: なるほど。今日はアウトローが集まった、みたいなの？ 今日限定の結果ですか、これは？ (笑)

真山: 今日限定…… (笑)。なるほど、なるほど。ありがとうございます。

清涼院: 今、「戦国武将、三国志」の選択肢もありましたけれど、真山さん、今年出された本が、ちょうど、そのテーマですよ？

真山: そうですね。画面に出ている右下のふたつがそれで。『企業として見た戦国大名』は、会社として見た時に戦国大名はどんな感じなのかと。あとは、『ざんねんな三国志』という、『三国志』の意外な一面をちょっとクローズアップした、という。

清涼院: 真山さんは昔から編集者で。編集長としても、すごく忙しくしてらっしゃったのですが、その中で、あれだけ本を書き続けられているのは、どのようにされているんですか？

真山: いや、でも、毎日2時間とか1時間とかですけどね。毎日こつこつやる、ということくらいしかないですかね。

清涼院: 偉人とか名言の切り口で本を出されていて、テーマとかが枯渇することはないのですか？

真山: それは、あんまりなくて。恋愛だったりとか親だったりとか、いろんな要素が切り口としてありますので。まあ、恋愛の本は、まだ出したことがないんですけど。逆境とか、そういういろんなキーワードと結びつきやすいので、ネタが枯渇することはないかな、と。

清涼院: ああ、そうなんです。2年前には『ざんねんな偉人伝』とかが大ヒットしましたね。これは今日、お話ししても良いという許可を事前にいただいています、真山さんは、実は、お子さんが3人いらっしゃいます。

真山: そうなんです。

清涼院: それであえて兼業作家から専業作家になられて、このご時世で独立されるというのは、すごいご決断だな、と。それについても伺いたかったんです。今日は著者の方たちが何人も参加されていますので。あえて専業になられたご決断について。

真山: 勤務していた出版社が業界誌の専門出版社だったのですが、その月刊誌を廃刊することになりました。編集長として、月刊誌が終わるなら辞めなきゃいかんのじゃないか、という気持ちがいちばんの理由ですかね。

清涼院: では、大ヒットを出されたから、というより、その業界誌が終わってしまうから？

真山: それが大きいですかね。ヒットは、もちろん後押しにはなりましたが。時期としては、ズレてるんで。業界誌の廃刊が大きいですね、やっぱり。決断したのは今年1月くらいで、日本でのコロナ禍が始まる前だったので。

清涼院: テーマが枯渇することはない、とのお話でしたが、今後のビジョンとしては、どのくらい予定は決まっているんですか？

真山: 企画は今、4冊くらいですかね。

清涼院: え、もう4冊くらい動いてるんですか？　すごいですね。

真山: まあ、動いてますけど……。ネタは枯渇しないんですが、それを出版社が採用するかどうかは別の問題なんで。企画が通りにくくなったりとか。やっぱりツイッターのフォロワー数とかを重視するところも出てきたり。

清涼院: 真山さんは、いつも、お原稿を書いてから出版社に持ち込まれるんですか？

真山: 僕は基本的に、依頼を受けてから書いてますね。

清涼院: 書いてからボツになることはあるんですか？

真山: それはいいですね。「こういう企画どうですか？」と聞かれて、出す時もありますし。最近、企画物をやっぱりやらなきゃいけないなと思って、やるようにしてるんですが、なかなかうまくいかないところもあって。

清涼院: まだ独立されて間もないですけど、手応えは、どうですか？　やっていけそうですか？　独立されたのが今年の……何月でしたっけ？

真山: 6月なんで、まだ半年くらいなんです。まあ、なんとかやっていけるといいですけどね。The BBBに期待するしかないですね（笑）。

清涼院: 画面左下に表示されている真山さんの『日本が誇る名言50』は、けっこう動き的にも良くて。

真山: おー、ありがとうございます。

清涼院: 日本語版と英語版が、同じくらいダウンロードされています。あの作品は真山さんと相談して、日本の名言は外国人（海外読者）はたぶん知らないだろう、ということで書いていただきましたよね。

真山: そうそうそう。

清涼院: たとえば、日本人なら知っている織田信長の名言とかでも、外国人は知らないですし。そもそも、それは誰？ という感じで。すごく良い企画をしていただきました。

真山: 確かに、なかなか英語で本を出せないですからね。ありがたいですよ。まあ、偉人とかもね。その国々にいますから。今後も宣伝や、新作も含めて考えていますけれど。

清涼院: 『日本が誇る名言 50』というタイトルですが、この本は偉人の紹介にもなっていますよね。

真山: あ、そうですね。偉人を解説しての名言なんで。はい。

清涼院: 真山さんは既に執筆をいろいろ抱えていらっしゃるんで、なかなか The BBB での新作というのは難しいでしょうね。

真山: いやいや、そんなことないですよ。やりましょう。ガンガンやりましょう。世界でも通用するような人物とか。世界で—英語圏でこそ認められる、いい歴史人物がいるかもしれないですからね。なんか考えてみたいと思いますけどね。

清涼院: 日本の名言とか偉人を英語で紹介するのは、すごく価値があると思いますね。

真山: ですね。それ絶対に面白いと思っていて。広げたいなー、と。

清涼院: たとえば、僕たち日本人がスティーヴ・ジョブズのような世界的著名人を紹介したら、「それは知ってるよ」と海外読者から言われますけれど。日本の本田宗一郎とかであれば、知らない人だっているでしょうからね。

真山: 日本語だけだと、やっぱり、どうしても限界があるんで。あと、中国とか韓国の偉人とかも調べ切れていないので。そのあたりも今後やってみたら面白いのかな、とか。

清涼院: いつもリサーチは、どのようにされてるんですか？

真山: リサーチは、やっぱり本で。図書館に行ったり、本を買ったりしますけど。

清涼院: 真山さんの本は、参考文献が、いつもものすごく多いですよ。

真山: そうですね。一応、当たれるぶんだけは当たってやるようにしていますかね。まあ、ほんとは、そういう幅も広げたいんで。流水さんのように、英語も、もうちょっとちゃんとやれば良かったんですけども。今後は言語とか、本当は古文書とか読めたら、いちばん理想的なんですけれども。そこまでは、できていないので。言語が広がると、当たれる文献も広がるな、というのは、いつもつくづく思っていることで。

清涼院: 古文書とか読める方は、うらやましいですよ。

真山: そうなんです。どこで特徴を出すかとなった時に、やっぱり言語は大きいな、と思っていますけどね。今後の課題だな、と思っていて。

清涼院: 僕も今、英語で資料を読めるようになって、だいぶ助かってますからね。

真山: それは、ぜんぜん違うと思いますよ、ほんとに。

清涼院: キリスト教の資料とか、日本ではあまり出ていないですけど、海外では山ほどあるので。

真山: そうですよ。それに英語だと、資料の信憑性も判断できないので。そのへんも今後の課題なんですよ。

清涼院: 小説を書かれるご予約はないんですか？

真山: 小説の予定は、今のところはないんですが、歴史小説ではないものの、その間（あい）の子みたいなものは求められるようになってきて。やっぱり、みんな、どんどん本を読まなくなってきて。わかりやすいものが求められると、物語のほうを読みやすい、となっちゃうので。ちょっとセリフを加えたり、とか。“プチ・フィクション”みたいな感じに、ちょっとずつ足を突っ込みつつあるので。そっち方面から行ってみたい、とは思っていますね。

清涼院: 本づくりの際に、いつも重視されてることというのは、あるんですか？

真山: やっぱり、わかりやすい文章というのは心がけていて。文章は短く、とか。

清涼院: たとえば切り口とか、タイトルとか、見せ方とか。

真山: タイトルや見せ方は、なるべく上から目線にならないように、とか（笑）。

清涼院: いつもキャッチーですよ。この画面に出ている4冊を見ただけでも。誰でも興味がある、と言うか。

真山: ありがとうございます。ぱっと見た印象で、そうですね。やっぱり、中を読んで買ってくれるわけではないので、タイトルは毎回苦労するところかな、というふうに思いますね。

清涼院: 時間も良い感じですが、真山さんからおっしゃりたいことがあれば、お願いします。

真山: はい、そうですね。先ほども少し言いましたけれど、僕は、フランクフルトのブックフェアに毎年、編集者として行ってまして。翻訳本を買い付けに行ってたんですが。やっぱり、韓国とか中国とかアジアの人は日本のことに興味あるから版權を買ってくれるんですけど、英語で出すとか、まず無理なんです。コンマリくらいで（※「コンマリ」とは、整理術の本が世界中でベストセラーになった近藤麻理恵氏。konmariは「片づけ」を意味する英単語にもなっている）。英語の電子書籍が出ている、ということは、本当にすごく貴重なことだなと思っていて。ひとりでも、ふたりでも、英語圏で読んでくれてる人がいるという事実が、すごく励みになります。今後、こっちの活動もぜひ進めたいと思っていて。今日は皆さん、「はじめまして」ですけども、今後とも、よろしく願いいたします。

清涼院: 今後はぜひ、The BBBの主力メンバーとして、お願いします。せっかく専門作家になられたんですから。

真山: そうですね。けっこう寂しくしているので、ぜひまた呼んでください。

清涼院: 今はリアル・イベントをできないのがちょっと残念ですけど、こういう形ででも交流できるのは貴重だと思いますし。

真山: いろんな人が全国から集まれますもんね。いいっすよね、オンラインは。

清涼院: またあとでQ&Aセッションでなにかお話が出るかもしれないですが、真山さん、とりあえず、ありがとうございました。

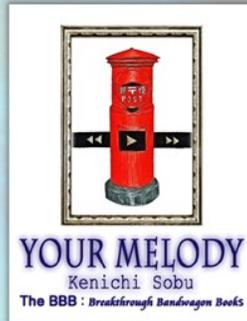
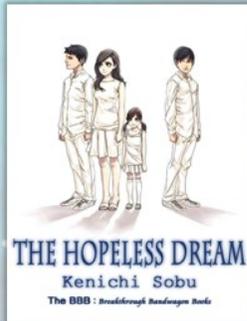
真山: はい、ありがとうございました。

清涼院: では、ターニャ、スライドの次のページをお願いします。

7. 蘇部健一さん（作家）

蘇部健一（そぶ・けんいち）

1997年、『六枚のどんかつ』で
第3回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。
The BBBでは『叶わぬ想い』、『きみがくれたメロディ』を発表。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: 次は蘇部健一さんですね。蘇部さん、お待たせしました。

蘇部: はい、どうも。

清涼院: そして、蘇部ファンの皆様、お待たせしました。

ターニャ: よろしくお願ひします。

蘇部: お願いします。

清涼院: 蘇部さんは「Cast Party」の常連さんで、おなじみの方ですけど。1997年、『六枚のどんかつ』で第3回メフィスト賞受賞し、作家デビュー。The BBBでは『叶わぬ想い』、『きみがくれたメロディ』を発表されています。発表されている—と言いますか、蘇部さんが昔、発表された代表作の短編を、英訳させていただいています。そして画面右下にあるのが、3年前の「Cast Party 2017」でタイトル募集企画が非常に話題になった『小説X あなたをずっと、さがしてた』ですね。この『小説X』のインパクトで3年前はすごく盛り上がったわけですが、蘇部さん、今年それが画面右下の文庫になったのですね？

蘇部: あ、はい。でも、両方、ものの見事に売れなかったですね……（苦笑）。

清涼院: えー、そうなんですか？ どこかの書店員さんが「蘇部さん、売れてます！」とツイートされているのを、たまたまお見かけしたのですが。

蘇部: 1軒とか2軒、応援してくれている書店で売れてても、愚痴になっちゃいますが、部数が少ないから書店さんに並ばなくて。たとえば、千葉県だと、5冊以上配本されている書店さんが、たぶん数軒だと思いますね。

清涼院: 蘇部さんは、いつも刊行された時に書店を回られていますけれど、だいたい把握されてらっしゃるんですか？ どの書店に何冊配本、ということ。

蘇部: その書店に行けば、平積みになっていないのがわかるし。今年の文庫『あなたをずっと、さがしてた』の時は、千葉とかでは書店さんが7、8軒、もう潰れてたりとかして。

清涼院: うわー、それは厳しいですね……。

蘇部: そうなんです。書店さんがない上に、配本が5冊以上ないと、平積みにならないので。そうすると、もう絶対に紙の本は売れない、ということになりますよね（苦笑）。

清涼院: 確かに、コロナ禍の影響として、書店さんが苦しいのはあるでしょうね。

蘇部: いや、それはコロナの前で……。コロナで、たぶん、余計ひどくなっているだろうな、とは思いますが……。

清涼院: 特に（2020年4月7日から5月25日にかけての最初の）緊急事態宣言の時期などは、なかなか書店さんにも行けなかったでしょうし。でも、とにかく蘇部さんは、この文庫でも書店さん巡りをされたんですよね？ この本が出たのは、今年1月でしたっけ？

蘇部: そうですね。

清涼院: じゃあ、まだそんなにコロナが日本で広まる前？

蘇部: まだ完全にコロナの前で。だから、80軒を目標に行っても、POP（※店頭プロモーション広告）を置かせてもらえたのが60軒くらいで。20軒近くは潰れてましたね、本当に。

清涼院: ええーっ、そんなにですか……。

蘇部: いや、本当の話です、これは。

清涼院: それは、ちょっとシャレにならないですね。

蘇部: そうですね。潰れて他の書店さんにならなくて、オシャレな書店さんにならなくて、小説はほとんど置いていない、みたいなパターンも、けっこうあるんですよ。

清涼院: それは、今日いちばんリアルな話ですね。

蘇部: だから小説は、今後も絶対に売れないと思いますね。

清涼院: 本当に難しいですね……。話題が出たので、今日まさに、それに関して蘇部さんからご質問をおひとついただいています。ターニャ、蘇部さんからのご質問を表示していただけますか？

ターニャ: はい、蘇部さんからのご質問です。「深刻な出版不況により、小説を読む方が、驚くほど少なくなっていますが、日本のミステリー小説に未来はあると思われませんか？」では、結果を共有いたします。

蘇部健一さんからの質問

深刻な出版不況により、
小説を読む人が驚くほど少なくなっていますが、
日本のミステリー小説に未来はあると思いますか？

日本のミステリーは
完全に死に絶えたと思う

かなり深刻な状況だ

何らかの対策を講じれば、
明るい未来はきっとあると思う

清涼院: 蘇部さん、結果をご覧くださいますか？

蘇部: ずいぶんポジティブですね（笑）。

清涼院: いいですねー、皆さん。ポジティブですねー。

蘇部: いや、驚きました（笑）。私は、いちばん上に投票したので。

清涼院: 読者の立場としては期待したい、とか。まあ、著者としても、期待したい気持ちはあるでしょうし。

蘇部: あー、そうですね。

清涼院: 僕たちも、（現状を悲観していたとしても）期待はしたいですからね。

蘇部: 漫画とかアニメだと、『名探偵コナン』とかは、若い人から大人まで、すごく人気あるんだけど。ミステリー小説ということになると、ともかく本が売れないので。だから、これから名作や傑作の類いは生まれないんじゃないかな。数年に1作とか、そういうペースになっちゃうかなとは思いますが、本当に。

ターニャ: 今、チャットで（一般参加者の）月野さんから、面白いコメントをいただきました。蘇部さんの単行本、文庫ともにサイン本を購入していただいたそうです。

清涼院: それは、ありがたいですね。

蘇部: ありがとうございます！！

清涼院: 森博嗣さんが、よくエッセイとかで書かれてるんですけど、過去の名作って、なくならないんですよ、別に。ミステリー小説に限らないですが、過去の名作も読み継がれているので、われわれは、それ（過去の名作）とも戦っていかないといけないので。そういう大変さもあるんですよね。蘇部さんも、過去のご自分の作品もあるわけですし。

蘇部: コンテンツがもう際限なく増えていくから、ライバルも当然、際限なく多くなるんだけど。若い人はもう、古典は読まないだろうなと思いますね。あと、長編も分厚いのは若い人は絶対に読まないと思います。

清涼院: そうみたいですね。薄い本が好まれるみたいですね、やっぱり。

蘇部: あとは、メディアミックスみたいに映像化されるとか、そういう方向じゃないと、まず売れないでしょうね。

清涼院: 良い本を書けば売れる、という時代でもないのです。本当にそこは難しいところで。そもそも、部数が少なくなると書店さんに置かれなるとか、そういう問題もありますし。先ほど蘇部さんからお話しいただいたように。

蘇部: そうすると、どんなに面白い作品を書いても次の本を出せない、ということになりますよね。

清涼院: そうした状況の中で、蘇部さんのお考えとしては、どういう対策とか戦略をとられるおつもりですか？ あくまで神がかったアイデアで勝負したいですか？

蘇部: やっぱり何かしらのフックがないと、とにかく本を出せないから。だからそこはもう、どんな汚いマネでもする、という覚悟で（笑）。

清涼院: 確かに、本当に、何か話題性がないと、そもそも本を出してもらるのが難しいんですよね。出版社が「話題性がなければ出しません」という感じで。僕も以前、ちょっと新境地っぽい作品を出版社に持ち込んだら、「今は新境地を出せる時代ではないです」とか言われてしまいました（笑）。そんなこと言ったら何もできないじゃないか、と。蘇部さんは、現時点では何か構想のようなものはおありなんですか？

蘇部: 今、一応、新作を書いているところで。まあ、どの出版社へ持ち込むかな、ということですよ。

清涼院: それは完全に書いてしまってから、どこかの出版社へ持ち込まれるんですか？

蘇部: まあ、そうですね。伝手があるところに手紙を書いて、読んでもらえませんか、みたいなことになるかな、という。

清涼院: 一方で、蘇部さん、われわれのメフィスト賞仲間では、たまに大ヒット作を出される方とか、いまだに、いらっしゃいますよね。そこは、かすかな希望なのかな、という。

蘇部: そうですね……うーん……。

清涼院: それこそ乾くるみさん（※第4回メフィスト賞受賞者）なんて、ミリオンセラーを出しちゃいましたし。

蘇部: そこをねらって私は『小説X』を書いたんですけど（笑）。で、小学館も力を入れて「タイトル募集」という企画をしてくれて。

清涼院: あの企画は、かなり盛り上がったと思いますよ。

蘇部: いや、そうなんです。とてつもないお金をかけてくれてくれて。あれは軽く100万円以上のお金がかかっていると思うんで。それでも結局、デジタルのほうは景気いいんだけど、あんまり販売部が売ろうとしてくれないみたいなことに結局なっちゃうので……だから、難しいですよ。

清涼院: 本当に難しいですよ。僕も蘇部さんと同じような苦勞を味わってきたような面がありますから。すごく共感できる、と言いますか。読者のサイドからするとあまり関係ないかもしれないんですけど。とにかくまず本を出すことが昔より難しいし、本を出してそれを届けるのが、本当に難しくって。その作品を読んでくれたら喜んでくれる読者層があったとしても、そこに届けるのが難しいですよ。

蘇部: 本当に、その通りです。

清涼院: 僕は、蘇部さんの近年の作品が、どれもすごく好きなんです。だから何でこの傑作が通用しないんだと、もどかしく思ってしまうくらいで。そもそも知られるきっかけが少なすぎる、というか。

蘇部: だから私だけじゃなくて、ほとんどの作家さんは本が出せない状況にあると思うんだけど、新作の点数とかは前とそんなに変わってないんですよ。不思議なことに。

清涼院: まあ、出版社も「新人なら売れるだろう」みたいな感じで、新人を次々に出してる面があって。だって小説新人賞の受賞作だけでも、かなりの作品数ありますからね。

蘇部: だから今は新人のほうが本は出しやすいかもしれないな、と思いますよ。

清涼院: そうだと思います。なまじキャリアがあると、「あの人はもう、このくらいしか売れないだろう」みたいな見方をされちゃいますから。どうしても過去のデータとかで。

蘇部: そうなんです。データが、すべての出版社に行っちゃってるから……。

清涼院: そこは本当に、長くやってる難しさでもありますよね。僕と蘇部さんは、昔からずっと一緒にやってきてますからね。もう四半世紀ですから、僕らは。四半世紀は、やっぱり長いな、というか。

蘇部: いや、こんな時代が来るとは思わなかったですよ……（苦笑）。

清涼院: そうですね。僕らが世に出た頃は出版バブルのピークで、笑いが止まらない時代でしたからね。

蘇部: やっぱり電子書籍への移行が失敗したのかな、と。

清涼院: そちらは着実に進んでいるようで、電子書籍には期待しているんですけどね。

蘇部: 漫画は、たぶん、電子書籍でうまく行き始めてると思うんで。

清涼院: 漫画は（紙の本より）電子のほうが売れてる、と聞きますね。

蘇部: ですよ。だから家にいて、28巻が欲しいという時に、本屋に行っても、その巻がないかもしれないけれど、電子書籍だとすぐ手に入る、みたいな。そういうメリットがありますものね。

清涼院: 蘇部さん、だいぶいいお時間になってきたのですが、最後になにかおっしゃりたいことがあれば、お願いします。

蘇部: ああ、では、終わりにしましょう。

清涼院: え、大丈夫ですか？

蘇部: ぜんぜん問題ないです。どうも失礼しました。

ターニャ: 蘇部さん、ありがとうございました。

清涼院: ありがとうございました。では、スライドの次のページをお願いします。

8. 藤枝暁生さん（酒場本&英語本著者）

藤枝暁生（ふじえだ・あきお）

2016年、『サラリーマン居酒屋放浪記』で著者デビュー。
本業が多忙な中、酒場本と英語本を次々に発表し、
評価を高め続けている。



The BBA : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: ここからは藤枝暁生さんにご登場いただきます。

藤枝: はい、よろしくお願いいたします。

清涼院: 藤枝さんは2016年、『サラリーマン居酒屋放浪記』で著者デビュー。本業が多忙な中、酒場本と英語本を次々に発表し、評価を高め続けている。先ほどご登場いただいた真山知幸さんは偉人本と名言本でしたが、藤枝さんは酒場本と英語本という両輪が非常にユニークで。最初の2作が、画面左下に並んでいる酒場本でした。最近は英語本が2冊続いています、今、この新刊『TOEIC® L&R TEST 上級単語特急 黒のフレーズ』という新刊が非常に好調のようです。藤枝さんのすごいのは、本づくりがうまいところで。Amazonとかで見ても、すごい評価の高いレビューがたくさんついています。皆さんもご覧いただきたいんですが、そのあたりもお考えを伺ってみたいと思うんです。本づくりについて、いつもどのようにお考えなのでしょうか。

藤枝: あまり深く考えることはないんですけども、唯一、考えているのは、読みやすさです。

清涼院: なるほど。

藤枝: 酒場本と英語本という、似ても似つかぬ2ジャンルですが、どちらも「頭から読んでいったら読み返さなくてもわかる」ということを大事にしていますね。そこが共通しているところです。

清涼院: それが、ご著書の読みやすさにつながってるんですね。

藤枝: そう、だから何度も何度も自分で読み直します。先ほどもお話がありましたけれど、フレーズを短くするとか、過度に形容詞的な言葉や副詞的な言葉を使って長くしない、とか。いろんなふうにして、一度読めば頭に入るように、ということは考えていますね。

清涼院: 非常に読みやすい文章で。特に居酒屋の2冊などは、短編小説的な味わいもあると感じられました。小説をお書きになるご予定は、おありですか？

藤枝: それはないですね。この酒場本も、ほんとは最初のコンセプトって、お店の紹介本だったんですね。ただ、お店の紹介本ってたくさんの方が書いているし、サンプル原稿を書いてみたんですけど、つまらないんですよ。それでこのエッセイ的な感じにしたんですね。

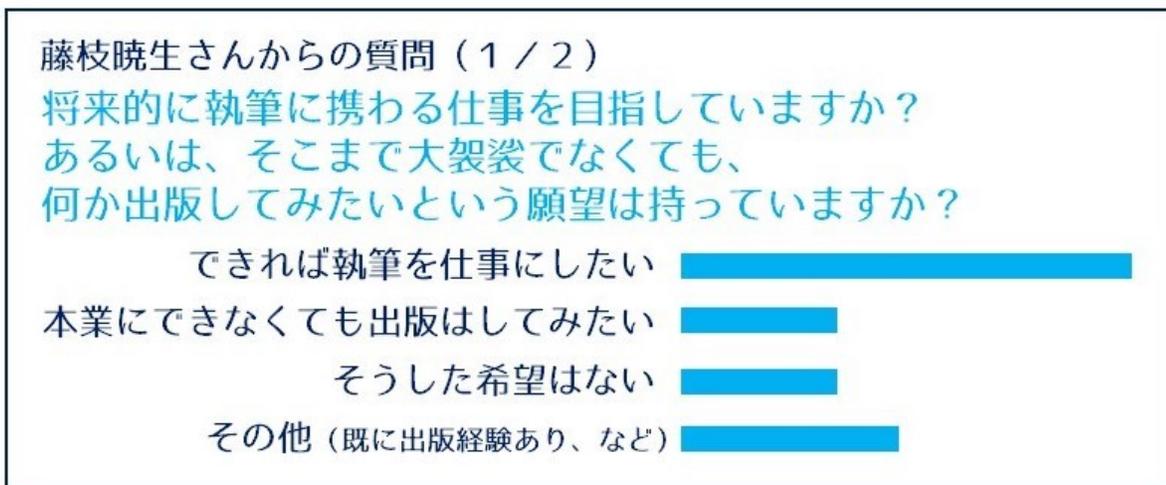
清涼院: なるほど。藤枝さんは読書好きで、昔からいろいろ読まれていますけど、そういう経験は、やはり活かされていますか？

藤枝: そうですね。だいたい読んだ本の1/100も1/1000も書けませんし。読まないとやっぱり書けないですよ。本を読まない人で書ける人って、たぶんいないと思います。

清涼院: それは、おっしゃる通りかもしれないですね。そのお話と通じるかもしれないですが、今日は藤枝さんからご質問をふたついただいています、これは関連性があるので、ふたつ連続でやりたいと思います。ターニャ、藤枝さんからのご質問をお願いします。

ターニャ: はい、藤枝さんからのご質問ひとつめです。「将来的に、執筆に携わる仕事を目指していますか？ あるいは、そこまで大袈裟でなくても、何か出版してみたいという願望はお持ちでしょうか？」どうぞご投票ください。

清涼院: 著者の方は、「出版経験あり」になりますね。



ターニャ: 投票終了させていただいて、結果を共有いたします。こうなりました。

清涼院: 藤枝さん、この結果は、いかがですか？

藤枝: 「執筆を仕事にしたい」と「出版してみたい」で8割くらいになるのかな、と予想していたんですけどね。

清涼院: あー、でも、既に出版経験ありの出演者も投票されていますからね。

藤枝: このキャスプは前にも参加していますがけれど（※藤枝氏は「Cast Party 2017」で、読者第代表としてプレゼン出演経験あり）、作家の卵みたいな人がすごく多いから。もっと多いのかなと思ってたんですよ。

清涼院: 僕は、これは決して少なくない数だと思いましたね。

藤枝: まあ、確かに6割近いですからね。

清涼院: この中の6割の方が、出版のご希望を持っていらっしゃるわけですね。

藤枝: 非常に興味深い結果ですね。

清涼院: こういう方たちには本当に今日の話をご参考にしていただきたいですし、何か参考になることがあるといいなと思います。

藤枝: そうですね。はい。

清涼院: そして、藤枝さんからのもうひとつのご質問が、実は最初のご質問を踏まえてのものとなりますので、ターニャ、ふたつめのご質問も、お願いします。

ターニャ: 藤枝さんのふたつめのご質問を表示いたしました。「皆さんが出版されることを考えた時、どのような文章を書かたいと思われていますか？」どうぞご投票ください。

藤枝暁生さんからの質問（2 / 2）

あなたが出版することを考えた時、
どんな本、どんな文章を書きたいと思っ
ていますか？

目標とする作家に近い作風で

できれば独自の作風で

その他

ターニャ: 投票を終了いたしまして、結果を共有します。

藤枝: （結果を見て）おおーっ！

清涼院: これは圧倒的ですね、藤枝さん。

藤枝: 「独自の作風で」。なるほど。

清涼院: 皆さん、やっぱりオリジナリティを重視されてるんですね。

藤枝: あー、そうなんですね。

清涼院: でも、新人賞の審査員をされている大御所作家の方がおっしゃっていたんですが、「みんな、オリジナリティがないんだよ」、と。けっこうぼやいておられたベテラン作家の方も多くて。でも、皆さん、オリジナルなものを志していらっしゃるというのは、すごくいいことだな、と思います。

ターニャ: 「その他」というのも少し気になりますね。5パーセント。

藤枝: そうですね。

清涼院: 藤枝さんご自身は、やっぱり独自性は気にしていらっしゃいますか？

藤枝: 独自性というか、あこがれている作家さんがいまして。その方を最初はマネしていますよね。模倣から始めて、自分のスタイルに、というふうに進んでいくんだと思います。私の書いている文章については、非常に影響を受けている作家さんが、おひとりいるんです。だれとは言わないですが、「あ」行で始まる名前の作家さんです。

清涼院: はい（笑）。僕は見当がついていますけれど。藤枝さんは、その作家さんの作品が好きで、よくお話しされているので。

藤枝: ええ。やっぱり、似てきますよね。雰囲気的に。名前を言えば、たぶん、「あー」と納得される感じですけどね。名前は言わないですけど（笑）。

清涼院: まあ、言っちゃってもいいような気もしますが（笑）。どちらでもいいですが、だれでも知っている作家さんで、「小説の天才」のような方ですよ。

藤枝: そうですね。はい。

清涼院: ですから、良いお手本があると、やっぱり自分も上手くなるのだと思いますよ。僕などは自分がそんなにうまい文章を書けるとは思わないですが、それでも名文と言われるような文章の作家さんの作品を読むと自分の意識が変わる、と言いますか。その一方で、僕たちエンターテインメント作家の場合は、文章にそこまでこだわらないという方も、実は、けっこういらっしゃるんですよ。ミステリー作家などは、特にそうです。

藤枝: 内容重視ということですね。物語の筋とか。

清涼院: それは良し悪しで、どちらのタイプがいてもいいと思うんですよ。だから、「ミステリー部分だけが重要だ」と主張するミステリー作家がいてもいいと思いますし、「いや、ミステリーでもやっぱり文章とか人物造型をがんばりたい」という方もいるでしょうし。

藤枝: なるほど。

清涼院: 藤枝さんご自身の活動につきましては、酒場本から英語本に「シフトする」と言うと表現がおかしいかもしれないですけど、最新刊の『黒のフレーズ』は、そうとう手応えを感じていらっしゃるんじゃないですか？

藤枝: そうですね。最初に『サラリーマン居酒屋放浪記』という本を出した時から、書きたかったのは、この『黒のフレーズ』です。

清涼院: 確かに、僕は何年も前から構想を伺っていました。

藤枝: 2007年—今から13年前にTOEICテストの受験を始めてから、この単語リストは蓄積していましたから。それを本当は書きたかったんです。でも、実際に執筆のオファーが来たのは居酒屋本だったんです。居酒屋本をふたつ書いて、足がかりができたのかはわかりませんが、ようやく英語の本もオファーが来た、ということで。

清涼院: 僕は、藤枝さんがすごいな、と思ったことがあって。これは他の作家さんにも参考になるかもしれない話ですが。最初、『上級単語特急 黒のフレーズ』という構想を伺った時に、それはちょっと読者に届けるのが難しいんじゃないか、と思ったんです。やっぱり難しい単語を必要としているのは上級者で、どうしても数が少なくなっちゃうじゃないですか。

藤枝: そうですね、はい。

清涼院: ところが、非常にうまい仕かけをされていて、それで今、上級者じゃない人にもすごく届いていると思うんですよ。藤枝さんに教えていただきたいのは、著者のこだわりとして、ひとつのページの中で単語のレベルを3段階に分けられたじゃないですか。

藤枝: ああ。えっと、4段階に分けているんです。

清涼院: あ、4段階でしたね！ 失礼しました。

藤枝: 通常のこういう英単語本って、最初のチャプターがやさしくて、だんだん難しくなっていくんですよ。後ろにいくにしたがって難しくなっていくわけですね。それってユーザーフレンドリーじゃないんですよ。

清涼院: 確かに。

藤枝: たとえば、初級者とか中級者だと、後ろにいくにしたがってツラくなっていくから、やめちゃうんですよ。で、上級者だと今度は最初がやさしすぎると、つまらなくてやめちゃうんですよ。だから同じページの中で上から下に難しくなっていく、という体裁にしたんですよ。これはたぶん、日本で出てる英単語本で、ほかにはないんじゃないかなと。

清涼院: そう、僕も史上初だと思うんですよ。そこが本当にすごいな、と思って。その仕かけを初めて知った時に。

藤枝: 最初は、TOEICで900点以上を目ざしてる人のために書こうとしたんですけど、それだと、さっき流水さんがおっしゃったように、売れないんですよ。TOEIC 900点を獲得する人って全受験者の2%とか3%くらいだから、そうすると、仮に100万人ターゲット層がいたとしても、2万冊しか売れないと。仮に全員が買ったとして、ですよ。そうすると、実際は数千冊しか売れないんですよ。もうちょっと間口を広げないと、ということで600点くらいから使えるような本を、ということで、だいぶ苦労してこの内容にしたんですね。600点以上ということになると、そうとう間口が広がるんです。

清涼院: 本当に勉強させていただいた、と言いますか、そういう目線が著者って絶対に大事なんだな、と。そのマニアックすぎるどころだけを見ずに、広い層に届けるにはどうすればいいか。それはたぶん小説の著者でも参考になるところだと思いますし。藤枝さんの最新刊『黒のフレーズ』は勝つべくして勝った本だな、という印象があります。

藤枝: これは、自分が書きたい本だったということもありますけども、「売れる本」を最初から目指したんです。売れないと届かないですから。手に取ってもらわないと、読者に届かないので。最初から売れるためのマーケティングをやった、ということです。そのような形で仕上げていったんです。

清涼院: そして、まえがきで予告されていましたが、『黒のフレーズ』は、実は2部作なんですか？

藤枝: そうです。2部作というか、実は、この『黒のフレーズ』には英単語が1000個入っているんですが、元々、2000個ぶんできてたんです。それを最初は1冊で出そうとしたんですけども、そうとう厚い本になっちゃうんですよ。上着のポケットに入ると邪魔になる厚さなんです。なので、「ふたつに割ってみませんか？」という提案を、こちらから出版社にしたんです。つまり上下巻、ということですね。

清涼院: 「上着のポケットに入る」というあたり、やはりこだわっていらっしゃるんですね。そういうところまで考えられて。

藤枝: そうですね。持ち歩いてほしいんです。家で勉強するんじゃないくて、常に携帯してほしいという思いで、つくった本なんです。なので、厚くなりすぎないように、ふたつに割ったんです。で、ふたつに分ける時に「上下巻じゃ、つまらないよね」という話にもなりまして。続編のほうは、「上級」ではなく「超上級単語特急」という名称になります。さらに難しいものを出す、と。

清涼院: その「超上級単語特急」の刊行時期は決まっているんですか？

藤枝: えっと、春の予定なので、たぶん（2021年）3月20日くらいになるでしょうね。おそらく。今、苦勞している点として、手持ちの英単語が1500個くらいに増えてしまったので、それを1000個に削る作業をしているんです。

清涼院: じゃあ、第3弾もあるかも……みたいな？

藤枝: いえ、そこは凝縮させます。なので500個を削らなきゃいけないんですけど、削った500個の見出し語を残す1000語の中に入れ込む、というとんでもない作業をされていて、それが大変です。

清涼院: そのあたりをどう見せられるのか、完成形もまた楽しみにしています。そんなところで、いいお時間になったのですが、藤枝さん、最後になにかおっしゃりたいことがあれば、お願いします。

藤枝: 今、執筆の依頼が来ているものだけお話しすると、『黒のフレーズ』の続編、もしくは『漆黒のフレーズ』のようなタイトルになると思います。あと、TOEICのPart 5の本のオフアが来ていて、春に出そうと思っています。

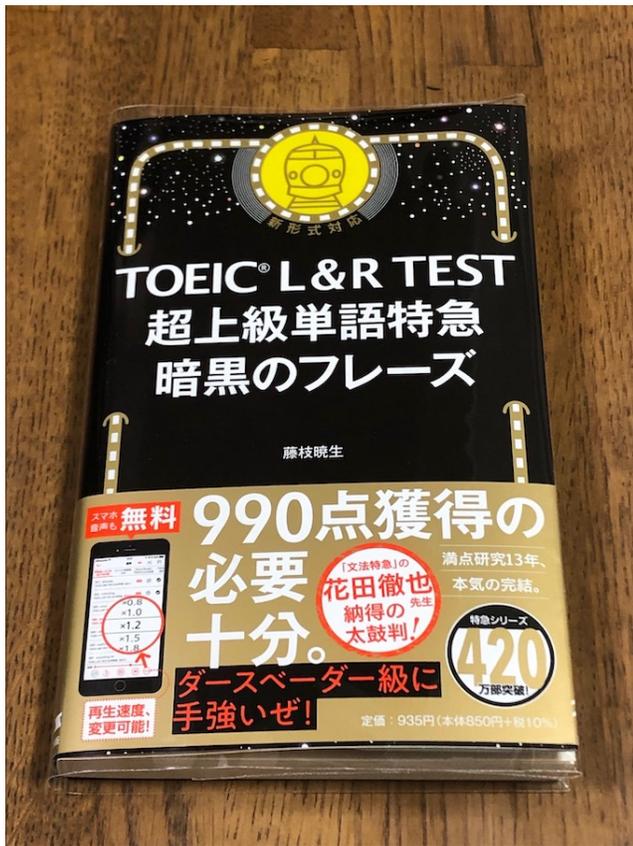
清涼院: おおっ、それは楽しみですね。

藤枝: ところが、最近、関（正生）先生がPart 5の本を出して、僕がねらっていた企画とほぼ同じ体裁のが出ちゃったんですよ。

清涼院: あー、そういうことがあるんですね。やっぱり。

藤枝: ええっ!? という感じで（笑）。そのような話が動いています。よろしくお願いします。

清涼院: 楽しみにしています。藤枝さん、ありがとうございました。では、ターニャ、スライドの次のページを、お願いします。



(※藤枝さんがお話しされている『TOEIC® L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』は、2021年4月に朝日新聞出版より刊行されました)

9. 積木鏡介さん（作家）

積木鏡介（つみき・きょうすけ）

1998年、『歪んだ創世記』で第6回メフィスト賞を受賞し作家デビュー。The BBBでは『都市伝説刑事』シリーズを発表し、カリスマ的な作風で海外読者にも熱烈な支持者を生み出している。



The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: いよいよ本日の出演者で最後の方、積木鏡介さんですね。

積木: はい、積木でございます。お願いします。

清涼院: 積木さんは「Cast Party」に毎回出演してくださって、いつも本当にありがとうございます。積木鏡介さんは、1998年、『歪んだ創世記』で第6回メフィスト賞を受賞し、作家デビュー。The BBBでは『都市伝説刑事』シリーズを発表し、カリスマ的な作風で海外読者にも熱烈な支持者を生み出している。画面の下に並んでいるのが『都市伝説刑事』シリーズのおもな著作で、いちばん一番左下が1作目ですね。そのとなりの「鮫島事件」は4作目になるんですが、都市伝説として有名な“鮫島事件”という題材を扱ってしまして。この都市伝説の“鮫島事件”がつい先日映画になったばかりなので、すごいタイミングだなと思いました。そして右下のふたつは、本当は3分冊なんですけど、スペースの都合で2冊だけ入れている「学校の七不思議3部作」です。『都市伝説刑事』シリーズを読んでくださってる方がこの中にもいらっしゃるかと思いますが、実は、シリーズ最終話をつい数日前にいただきまして。『都市伝説刑事』シリーズ完結編となる「事件6」を僕は今朝、読み終わったばかりで。今、ちょっと興奮やらぬところなんですけど。積木先生、本当に素晴らしい完結編をありがとうございます。

積木: お粗末ながら（笑）。

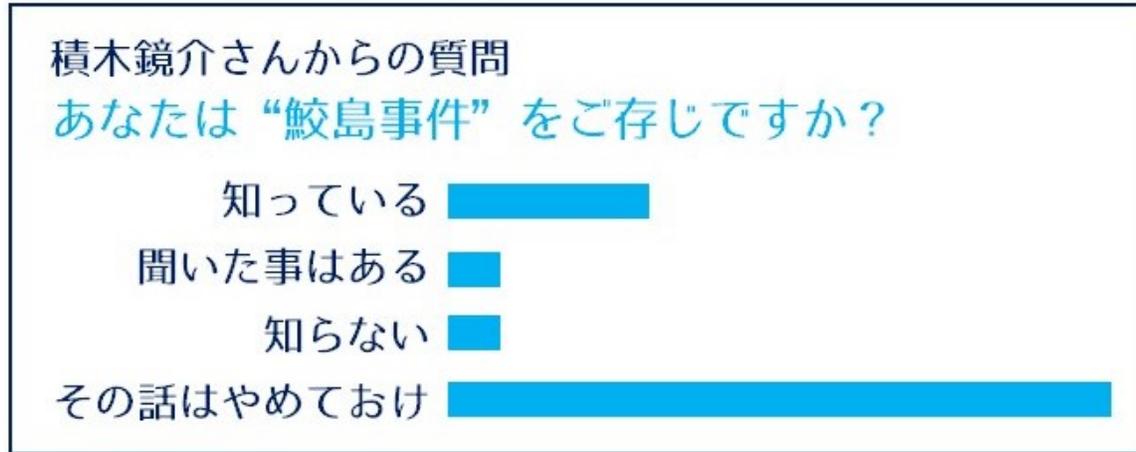
清涼院: “鮫島事件”の映画化は、どのように思われましたか？

積木: 清涼院先生、まず質問からいきませんか？

清涼院: あ、そうですね。では、ターニャ、積木先生からのご質問を表示していただけますか。積木さんのご質問は、ひとつだけですので。

積木: あなたは“鮫島事件”をご存知ですか? 「知っている」、「聞いたことはある」、「知らない」、「その話はやめておけ」—以上の4択です。

ターニャ: 皆さん、投票終了しました。結果を共有します。こんな感じでーす。



積木: 今日は、参加者の皆さん、いい方がそろってらっしゃいますねー (笑)。

清涼院: 積木先生、「その話はやめておけ」について、解説を願いできますか。

積木: まあ、ほとんどの方が知っているかもしれませんが、「2ちゃんねる」で発生した都市伝説です。誰かが「昔、聞いた“鮫島事件”について語ろう」と言うと、誰からともなく「その話はやめておけ」という返事が返ってくる、という都市伝説ファン定番のネタなんですけどね。で、僕の書いた「鮫島事件」は、鮫島という名前の島で4人の男女がいなくなっって、その謎についての話です。これ、もう1種類ございまして。映画化された“鮫島事件”は、人間の鮫島です。これが当時アンダーグラウンド色の強かった「2ちゃんねる」で、くわしいことはまずいので言えませんが、いわゆる鬼畜系のビデオを売って、お金を儲けていたんです。それに怒った他の2ちゃんねらーが彼を巧みに呼び出し、20人ほどで惨殺するーと、まあ、そういう話なんですけど。いずれにしても、でっちあげの話なんですけどね (笑)。

清涼院: 最初に「鮫島事件」のお原稿と一緒にあらすじもいただいて。そこに「鮫島事件の話をしてしよう」「その話はやめておけ」というやりとりが書かれていて、ワクワクしました。この「鮫島事件」は、『都市伝説刑事』シリーズの中で番外編的な位置づけですよな?

積木: はい。

清涼院: どうして4作目で急に番外編にしようと思われたんですか?

積木: そもそも、「鮫島事件」のトリックが先にありきだったんです、このシリーズは。

清涼院: あ、最初にあったのが「鮫島事件」の構想だったんですね。

積木: ええ。元々、何年も前から考えていたトリックを書きたかったんです。むしろ、そこから膨らませてできたのが、『都市伝説刑事』シリーズだったわけなんですよね。

清涼院: そうだったんですね。

積木: 最初から、「鮫島事件」でいったん集約させて、ラストにつなげる予定だったんです。

清涼院: 4作目に配置されたのは、どのような意図がございましたか？

積木: シリーズ前半で“友達の友達”と呼ばれる都市伝説連続殺人鬼が現れて、「メリーさんのメール」とか「ひとりかくれんぼ」、「くねくね」といった殺人事件を起こすと。そうして話を振っておいて、なぜ“友達の友達”は都市伝説連続殺人事件を起こしたのか、という原点に戻って最終話に進む、というストーリーだったんです。

清涼院: そこは積木先生のねらいが当たった、と言いますか、計算ではなかったのかもしれないですけど、皆さんの参考になるかもしれないデータとして、『都市伝説刑事』シリーズを今まで5作品やってきまして、4作目の「鮫島事件」が実はいちばんダウンロードされているんです。これはすごいことで、それだけ「鮫島事件」を読みたくなる方が多かったんだろうな、と。その次の「学校の七不思議」3部作も、七不思議というと日本っぽい印象がありますが、英語圏の読者から「早く続きが読みたい」という熱烈なファンレターがメールで届きまして、Amazonでもそのようなレビューが書かれていました。七不思議という日本的な題材でも英語圏に喜ばれて嬉しいなと思っています。

積木: 「七不思議」は、僕にしては、かなりクラシックな本格ミステリーですよ？

清涼院: そうですね。「学校の七不思議」は、もろに本格ミステリーですね。

積木: 全体的に、このシリーズの事件そのものは、僕にしては珍しく本格ミステリーにこだわってはいるんですけどね。特に「学校の七不思議」は、なぜ七不思議に見立てて殺人が行われるのか、動機は何かまで含めて、おそらくかなり正統な本格ミステリーになっていると思いますので、皆さんもぜひ読んでいただきたいと思っております。

清涼院: このシリーズは前のほうの作品のネタバレもあるので、できれば順番に読んだほうがいいですよ？ 前の事件の犯人の話が、ふつうに出てきたりもしますから。

積木: とりあえず、「メリーさんのメール」は日本語版は無料で読めますのでね。できれば、そちらを読んでから「鮫島事件」を読んでいただきたい、という気持ちはあります。

清涼院: 無料作品はThe BBB公式サイトからも簡単にダウンロードできますので、『都市伝説刑事事件1:メリーさんのメール』は、ぜひ試していただきたいな、と思います。そして、「学校の七不思議3部作」が本当にシリーズの集大成的な感じで盛り上がって、次はどうなるんだろう、と思っていました。実際に今日、最終話を読了したら、かなり意外性があると言いますか、シリーズを完結させるために、すべてをまとめてこられたな、という印象でした。ただ、一方で積木先生、この最終話は、かなり執筆に苦労されておりましたよね。どのあたりが、いちばん苦労されたポイントだったんですか？

積木: それは、ちょっと……言えませんね(笑)。たいへん申し訳ないですが。これからの活動にもつながる話ですので、それは勘弁してください。ごめんなさい。

清涼院: 了解です。今後も壮大なビジョンがございましたような結末でしたね、確かに。

積木: このシリーズは「鮫島事件」を中心に考えていたんですけども、（最終話のラストは）以前から書いてみたかった新しいテーマでもあります。ちょっと思わせぶりなラストですが、そこは今後うまく書ければな、と思っています。

清涼院: 『都市伝説刑事』シリーズを始められる際、積木先生は「ぜんぶで6つの事件になります」ということを最初からおっしゃっていましたが、完結編を書き上げられた今の感触としては、当初のイメージ通りになりましたか？

積木: そうですね。まあ、なによりも、あくまで“都市伝説”というのは虚構の世界である、と。フォークロアであって現実ではないわけですね。最近、一部で「信じる、信じないは、あなた次第です」と言う人もいますが。そもそも“都市伝説”と言った時点で、これは嘘なんです。ですから、そういう意味では、都市伝説の本道に戻った感じで、あくまで虚構の世界と現実を混ぜて書けたんじゃないかな、と思っています。

清涼院: 『都市伝説刑事』シリーズは、第1巻から「参考文献は最終巻の巻末に掲載します」という予告がずっとされていて、完結編では、いよいよ参考文献リストがつくんでしょうか？

積木: それはですね……自分で言うのもなんですが、おそらく、ミステリー史上最大量の参考文献、参考資料になるんじゃないかと思います（笑）。

清涼院: それは、すさまじいですね（笑）。

積木: というのは、なにせ本と資料だけじゃなくて、清涼院先生はわかると思うんですが、新聞記事がいっぱい出てくるんですよ。

清涼院: ああ、なるほど。それは大変ですね。

積木: それもできれば、ぜんぶ書きたいんですよ。僕の勝手な願望としては、その参考資料が、これから都市伝説に興味を持つ方にとって役に立つものになってほしい、という思いもあるので。

清涼院: それは、参考資料だけで本になりそうですね。

積木: そんな気もします（笑）。

清涼院: もしかしたら、そういう見せ方のほうがいいのかも说不定、という。

積木: とにかく、まだリスト作成はぜんぜん進んでいないので、がんばります（笑）。

清涼院: そうした新聞記事は、いつもどのようにリサーチされてるんですか？

積木: 国立国会図書館に通いまして、新聞の縮刷版を見る、と（笑）。

清涼院: 元からお好きだったんですか？

積木: そうですね。三面記事を集めるのが好きだったこともあって。ずいぶん前ですけど、会社を辞めてヒマだったんで、毎日、国立国会図書館に通って。新聞の縮刷版の目次を見ながら、なにか面白い記事はないかな、と探していたと。

清涼院: では、そうしたご経験が創作に活かされてるんですね？

積木: あんまり創作には関係なかったですね（笑）。この『都市伝説刑事』シリーズを書くまでは。

清涼院: 新聞を調べられる時は、見出しで「これは“都市伝説”っぽいな」という感じで注目されるんですか？

積木: ええ。結局、ぜんぶ読むわけにはいきませんから、見出しを見て。「この記事、面白そうだな」と思ったらそれを見る、という感じだったんですよ。

清涼院: 新聞の縮刷版を見るのは、今も続けてらっしゃるんですか？

積木: 今はもう、やってませんけどね。ひと通り見たので。変な話ですけど、ある裁判で……あ、これは、やめときましょう。またネタにしますので（笑）。ごめんなさい。

清涼院: わかりました。言えないこともあるわけですね。

積木: どちらにしても、さっきも言いましたように、虚構の世界を一。（一般参加者からの書き込みコメントに反応して）Zoomの背景は、キリストの墓とピラミッドです（笑）。

清涼院: 僕も気になってました。積木さんの背景が、キリストの墓とピラミッドの看板で。

積木: 実際に、こういう看板があるそうです（笑）。

※この看板は YouTube 動画「The BBB Cast Party 2020@Zoom」の積木鏡介さん登場場面でご覧いただけます。

清涼院: 東北にキリストの墓がある、という話は聞いたことがあります。

積木: ピラミッドなんかも、東北にはあるそうです。変な話で、すみません。

清涼院: いいお時間になりましたが、積木先生、なにか言いたいことはありますか？

積木: 言いたいことは、ぜんぶ言い切りました。個人的に言いたいことが、もう一点。「積木は人間の心の闇を描くことに興味がある」と、よく言われます。「心の闇」というのは言い尽くされた言葉ではありますが、今回は、その自分なりの解釈—幻覚や妄想といったものを積木がどういうふうに捉えているのか、というものも含めて。「黒い友達」「白い友達」という特異な人物を扱って描ききったと思っています。そのあたりを面白半分結構ですから、読んでいただければと思います。僕なりの“狂気”に対する考え方を思いきりぶつけたつもりです。そんなところでしょうか。以上です。

清涼院: どうもありがとうございます。では、ターニャ、スライドの次のページをお願いします。Q&Aセッションに進む前に、来年の予定に触れておきたいと思います。

10. Q&A セッション ～ Ending

2021年のThe BBBの刊行予定 (現時点で以下の22作品を予定しています)

神狩り博士『Towerld Level 0020』英語版+日本語版
神狩り博士『Towerld Levels 0011-0020』(合本)英語版+日本語版
森博嗣『Cradle the Sky: Episode 3, Epilogue』英語版のみ
森博嗣『Cradle the Sky』(合本)英語版のみ
モモ『モモ旅Vol. 4』英語版+日本語版
高田崇史『千葉千波の事件日記シリーズ3』英語版のみ
清涼院流水『SUMITADA Vol. 3』英語版のみ
秋月涼介『The Sifted Vol. 10』英語版+日本語版
秋月涼介『The Gifted Vol. 9』英語版+日本語版
積木鏡介『都市伝説刑事 最終話: 友達の友達』英語版+日本語版
積木鏡介『都市伝説刑事 事件1-6』(合本)英語版+日本語版
穂高『百名山 Vol. 7』英語版+日本語版
森博嗣『Sky Eclipse: Episodes 1-3』英語版のみ
森博嗣『Sky Eclipse: Episodes 4-6』英語版のみ

The BBB : Breakthrough Bandwagon Books

清涼院: このように、来年の予定をずらっと書いてみました。ぜんぶ実現できるかわからないのですが、今のところ、こういう予定となっています。重要なのが高田崇史(たかだ・たかふみ)さんの「千葉千波(ちば・ちなみ)の事件日記シリーズ」で、これは実に6年ぶりのシリーズ新作となります。高田さんの「千波くんシリーズ」を過去に2冊出させていただいたのですが、ちょっと見せ方で失敗したという反省もありまして。ですが去年、高田さんとミーティングさせていただいて、いい形の見せ方が決まりましたので、来年からは高田さんの「千波くんシリーズ」もThe BBBのメインの軸として増やしていきたいと思っています。本当にこれだけたくさん作品を出せるのか、わかりませんが、物理的にできる範囲で順番にこなしていくのみ、ということになります。

それでは、もうすでに終了予定時刻を30分オーバーしているのですが、もうちょっと時間の許す限り、最後にQ&Aセッションですね。実は事前にいただいているご質問がいくつかあるのですが、せっかくなので、もしこの場にいらっしゃる方から今ご質問があるようでしたら優先します。皆さん、チャットでもいいですし、マイクオンでもだいじょうぶなので、もし今ご質問がある方は遠慮なくチャットなりしていただけますか。出演者の誰かをピンポイントで指名していただいてもいいですし、出演者の皆さん全員に聞いてみたいことでも構いません。すぐには質問を書けないと思いますので、まずは、事前にいただいたご質問をいくつかご紹介しますね。どれでもいいので、何か答えられるものがある方は言ってください。

まず、ひとつめは、「今年のコロナ禍で、作品創作に対して影響がありましたか?」。

ふたつめ、「執筆が行き詰まった時、どうしていますか。リフレッシュ法は？」。

みつめ、「自分にとって“アナザー・スカイ”は、どこですか？」。

それから、「海外と日本で人気作品は違いますか？」—これは僕がお答えしないといけない質問なので最初にお答えすると、海外と日本で人気作品は違います。僕の考えでは、たぶん、表紙の印象が大きいんじゃないかなと思っていました。実は、積木さんの『都市伝説刑事』シリーズって、日本での反応が非常に良いんです。で、英語版は日本語版ほどは反応が良くないのですが、逆に、秋月さんの『The Gifted』シリーズだと、日本語版より英語版のほうが反応が良くて。『The Gifted』については、表紙絵担当の佐久間真人さんが洋書ふうの表紙にしてくださっているからだと思っています。『都市伝説刑事』シリーズは表紙絵担当の竹内麻喜さんが日本人好みっぽい感じにしてくださっているんで、日本人にウケているんだと思います。表紙の印象でこれだけ反応が変わるんだ、ということですね。

それに関連して、「海外のエリアや国ごとにダウンロードされている作品の特徴はありますか」というご質問もありました。以前、プロ・インタビュアーの早川洋平さんの電子書籍がインドで大ブレイクしたとことがありまして。インドでのみ異常にダウンロードされ続けて、どうしてかなと思ったら、同姓同名の早川洋平さんという有名なビジネスパーソンがインドにいらっしゃるみたいで、その方の作品と勘違いしてダウンロードされていた、という事件がありました。また、今年のThe BBBの事件として、佐久間真人さんのインタビュー電子書籍がブラジルで妙にダウンロードされ続けていました。どうしてだろうと思っていたのですが、どうも佐久間さんのお仕事関係の方がブラジルにちょっとご縁があるようで、それでダウンロードされていたみたいです。そのように、どこかの国限定で局地的な反応が得られるというのは、世界を舞台にして活動しているからこそだと思います。

ターニャ: 今、チャットで信国さんからご質問いただきましたので、ご紹介させてください。「作家の皆さんにお伺いしたいんですけども、個人的にミステリー小説はミステリー小説が好きな人のためのジャンルになっている、という印象があります。ジャンルそのものへの言及が多いなど、読者側の参入障壁が高いと思うのですが、作家の皆さんも同じようなことを考えられていますか？」どなたか、お答えいただけますでしょうか。

清涼院: 僕も信国さんと同じようなことは考えています。昔、SF小説の業界もそうだったらしいんです。SF小説が隆盛した後に「SF村」のようになって衰退した、という例があって。ミステリー小説もそうなるぞ、と警鐘を鳴らしていた方はいたのですが、ミステリーも結局、ミステリー・ファンの村社会のようになってしまっただけで、それで難しくなった面があるんじゃないか、というのは、僕がずっと感じてきたことです。このテーマは伺ってみたいですね。蘇部さん、積木さん、秋月さんや坂嶋さん、なにかあるんじゃないですか？ ミステリーについては。坂嶋さん、書店員として、評論家として、いかがですか？

坂嶋: まず、書店員としては、本格ミステリーは、以前よりどんどん売れなくなっていますよね。ラノベに近いキャラミスっぽいのは、まあまあ手を出されている感じはありますけれど。フィクションで今、売れているのは「なろう系」とかファンタジーっぽい作品がメインですね。書店員としてはそう思いますけれど、書き手としては、それぞれできるだけいろいろ読者に入ってもらえるような入口のものも書きたいな、とは思っています。

清涼院: 僕も読者としてはガチガチの本格ミステリーがすごく好きなんですけど、どんどん読者にとっての敷居が高くなっている面はあるかもしれない、と思っています。積木さんは、そのあたりは、いかがですか？

積木: 直接の返事にはならないかもしれませんが、まあ、長生きした関係ですかね。僕はミステリー業界に外部から入って、嫌な思い出があるんですよ。一時期、ミステリーのいわゆる「2時間ドラマ」が流行りました。あれが一時期、動機は、いつも浮気問題。はっきり言って、昼メロをミステリーに入れただけなんです。そんなのが続いた時期があったんですよ。

清涼院: 確かに。

積木: で、われわれメフィスト賞作家がよく言われた「人間が描けていない」という批判とか、ミステリー評論家からも「人間を描いた作品が読みたい」と言われたり。そんなのはミステリーと関係ないですよ。あげくの果てに、僕がいちばん呆れてしまったのは、ある評論家が「ミステリー作家というのは動機を考えないで、トリックは殺人を犯すためのものなのか。殺人ありきでトリックをつくってるのか」と言っていたんです。はっきり言いますが、「おまえ、2度とミステリー読むな！」ですよ。だから僕は、ミステリー小説はミステリーが好きなお客のために書くというのは、ある程度は譲れない線としてあると思います。

清涼院: それは絶対にそうですよ、もちろん。

積木: ええ。実際に、さらに言うなら都市伝説だって。われわれファンからすると、もう何年も前からテレビでやっている都市伝説ブームなんて、昔あった怪談話とか本当にあった怖い話の焼き直しにすぎないわけですよ。あんな都市伝説でも何でも無いものが、たまたま流行ってきたんで、乗っけられてしまうと。そうした歴史を見るなら、やはり、ミステリーがミステリー・ファンにこだわるのは、やむをえない面はあると思います。

清涼院: それはありますね。蘇部さんは、いかがですか？ 蘇部さんも、やはり、ミステリー愛が強いじゃないですか。

蘇部: さっきも言いましたように、ミステリー小説に関しては、ちょっと難しいんだろかな、と。だからやっぱり、アニメとか実写とか映像にならない限り、これからは、読者のみんなのところには届かないだろうな、と思いますね。すみません、暗い話ばかりで……（笑）。

清涼院: いえ、とんでもないです。信国さん、ご質問ありがとうございました。ほかにご質問のある方は、遠慮なくどうぞ。せっかくなら、この場の方からご質問をいただいたほうが良いので。もう少し待ってご質問がなければ、終わりとなりますので。

ターニャ: 先ほどの、ひとつめから4つめのご質問は、いかがでしょうか。

清涼院: それにぜんぶ触れていると、たぶん時間が足りなくなるので……。では、皆さんに、ざっくりと「コロナの影響はありましたか？」というご質問ですね。たとえば、藤枝さんは、ふだんのお仕事が完全にリモートになったと、おっしゃっていましたが。

藤枝: そうですね、はい。より時間は自由に使えるようになりました。

清涼院: では、執筆活動が、ますます充実されて？

藤枝: まあ、そうとも限らないのですが（笑）。自由にはなりましたね。通勤時間がなくなりましたし、仕事に人から話しかけられることは、ほぼなくなりました。創作活動はしやすくなりました。

清涼院: ありがとうございます。あと、真山さんは、いらっしゃいますか？

ターニャ: 真山さんは、もうご退室されました。ちょっと事情がありまして。

積木: お味噌汁をつくりに行かれました（笑）。

清涼院: 真山さんは、たくさん本を書かれていますので、リフレッシュ法を聞きたいな、と思ったのですが……。あと、自分にとってアナザー・スカイがある方は、いらっしゃいますか？これは、テレビ番組の「アナザー・スカイ」のようなノリだと思えますが。ご自分にとって特別な場所がある方は……いらっしゃらないですかね。ご質問は、もう大丈夫ですか？ なければ、もうエンディングに入ってしまうですけど。

積木: まあ、リフレッシュ法ですね。

清涼院: 積木先生、では、リフレッシュ法を、お願いします。

積木: ひたすら頭の中で「おまえは頭がおかしいんだから、絶対に、まともなことは考えるな」と言い続けますね（笑）。

清涼院: 積木さんのツイッターは、リフレッシュになっているんですか？

積木: 残念ながら、ツイッターは商売ですね、半分は（笑）。

清涼院: 確かに、大事ですよ。

積木: やっぱ、ファンの方は大事ですから。

清涼院: 坂嶋さん、リフレッシュ法は？ ありますか？

坂嶋: えー、まあ、歩くとか、お風呂とか……くらいですかね。ああそうか、さっきのコロナの影響の話としては、自分は、いつもイオンのフードコートで執筆するので、それが長居しづらくなったのが大変になりました。

清涼院: それはでも、大きい影響ですね。

積木: あ、新しい質問が入りましたよ。チャットです。

ターニャ: チャットで信国さんから、「これからミステリー小説家を目指すに際して、心がけておくべきことはありますか？」というご質問です。

清涼院: では、これを最後のご質問にしましょう。これは、やっぱり評論家として、坂嶋さんの意見を聞きたいですね。ミステリーの最前線を見てらっしゃると思いますので。

坂嶋: まあ、とりあえず、何度もトライすることですかね。なにがあっても、くじけないで。どんなに自信作でもダメなことはあるので、それにくじけずに。

積木: えー、積木として言いたいことは、「とにかく、たくさん書け」ですね（笑）。

清涼院: まあ、そうなりますよね。たくさん書いて、たくさん応募して。1～2回落選しても、ぜんぜんショックを受ける必要はなくて。賞との相性もありますし。

積木: 早く書け(笑)。

清涼院: 書くことしかないですよ、結局は。

坂嶋: そうですね。ダメでも凹まないで。どんなに良い作品でも落ちることはあるので、ということで気を取り直して。まあ、うまくできていない時もありますけれど。

ターニャ: 信国さん、「たくさん書きます」、と。ありがとうございます。

積木: 信国さん、がんばってください。

清涼院: では、良い結論が出たところで、そろそろエンディングに入りたいと思います。皆さん、今日はだいぶ延長して、長時間、本当に、ありがとうございました。The BBB としても初めての Zoom イベント、オンライン・イベントということで、画面がフリーズしたり、いろいろ至らぬ点があったと思います。そこは本当に申し訳ありませんでした。皆さんがほんのちょっとでも何か参考になることとか、楽しかったことがあったら嬉しいなと思います。

今日、僕も実際どういう方が参加されてるのかわからなかったのですが、けっこう真剣に作家になりたいという方がたくさんいらっしゃるみたいで、それを知ることができて本当に嬉しかったです。坂嶋さんもそうですが、絶対この中からまた将来の作家が何人も出てくると思います。そして、メフィスト賞に限らずですけど、メフィスト賞を獲ってくれるような人がいたら、メフィスト賞出身の僕としては本当に、そんなに嬉しいことはないです。とにかく新人賞はたくさんあるので、さっきの信国さんのご質問じゃないですけど、とにかくやっぱり書きまくることだと思います。賞との相性はありますので、落選してもへこたれずに書き続けて。となかく書き続けていけば、どこかで相性の良い賞や編集者と巡り逢えた時に必ずチャンスが巡ってくると思いますし。そうして挑戦し続けることで、あなたの未来に本当に道が拓けることを期待しています。The BBB は、こういう小さい規模でやっているんですけど、皆さんの応援あつての The BBB ですので、これからもこういう機会があれば、ぜひ、お気軽に遊びに来ていただきたいと思います。なにより今、本当にコロナが大変なので、1年後どうなってるか、ぜんぜんわからないです。来年とか再来年、またこういう機会があれば、皆さん元気で再会できたらと願っています。今日は本当にありがとうございました！



(この「Cast Party 2020」は、2020年12月20日に開催された Zoom イベントを eBook 化した The BBB: Breakthrough Bandwagon Books のオリジナル作品です)

The BBB の「Cast Party」シリーズ



Cast Party 2015 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2015.html>



Cast Party 2016 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2016.html>

The BBB の「Cast Party」シリーズ



Cast Party 2017 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2017.html>



Cast Party 2018 (Jp)

<https://thebbb.net/jp/ebooks/cast-party-2018.html>
